



いわき市立 美術館年報

平成27年度

目 次

沿	革	2
展覧会事業	常設展	3
	企画展	
	肉筆浮世絵の華と艶	11
	美術館へようこそ	14
	アンコール・ワットへのみち	17
	ぐりとぐら展	22
	山口啓介 原-ききとり	27
	小企画展	
	いわき市小・中学生版画展	32
	NEW ART SCENE IN IWAKI 松本和利展	34
	NEW ART SCENE IN IWAKI 西成田育男展	36
	共催展	
	第45回いわき市民美術展覧会	37
普及事業	移動美術館	41
	講演会	42
	美術講座	43
	ギャラリー・トーク	43
	ワークショップ	44
	実技講座	45
	公開制作	46
	映像鑑賞会	46
	コンサート&パフォーマンス	46
	出版	47
	実技講習室の公開	47
	図書室の公開	48
	実習生の受け入れ	48
	共催事業	48
所蔵資料	美術品収蔵状況	49
	美術品貸出状況	49
	所蔵資料に関する状況	51
	新収蔵作品	52
管理・運営	美術館関係法規	
	いわき市立美術館条例	54
	美術館関係法規	
	いわき市立美術館管理規則	56
	利用者一覧	60
	平成27年度当初予算	62
	名簿	63
	施設案内	64
	利用案内	65

沿革

昭和53年 2月	いわき市民ギャラリー主催による「ヘンリームーア展」が開催され盛況をおさめたことが市民の反響をよび、市立美術館建設の機運が高まる
昭和53年 6月	市総合計画の中で、前期に美術館建設計画を盛り込む
昭和54年 5月	美術館建設基本構想委員会を設置、委員 6 人を委嘱
昭和54年 8月	同委員会より美術館の基本構想について答申
昭和54年11月	基本構想を具体的に検討するため、市民20名による美術館建設審議会を設置
昭和55年 3月	美術品選定評価委員会を設置、委員 5 名を委嘱
昭和55年 9月	美術館・博物館建設準備室を設置
昭和55年 9月	美術館建設審議会から美術館建設について答申
昭和55年10月	基本設計は、指名競争設計方式で行うことを決める
昭和56年 1月	美術館建設基本設計審議会を設置、委員14名を委嘱
昭和56年 1月	同委員会で佐藤武夫設計事務所の案を選定
昭和56年 9月	美術館実施計画書の提出
昭和56年12月	市議会で美術館工事請負契約を決議
昭和56年12月	建設工事着工
昭和58年11月	竣工
昭和58年12月	市議会において美術館条例を決議
昭和59年 4月	美術館組織発足
昭和59年 4月28日	開館
昭和59年 4月29日	一般公開
昭和59年10月10日	いわき市立美術館友の会発足
平成 3 年 4月	常設展の観覧料を祝日無料とする
平成 4 年 4月	企画展の観覧をもって常設展観覧無料とする 7 月、8 月の金曜日の夜間開館開始
平成 4 年10月	美術館協議会より「いわき市立美術館振興策」が提出される
平成 5 年 1月	毎月第 2 土曜日を小中学生の常設展の観覧無料とする
平成 7 年 4月	毎月第 2、第 4 土曜日を小中学生の常設展の観覧無料とする
平成12年 3月	美術館協議会より「いわき市立美術館第 2 次振興策」が提出される
平成14年 4月	障害者、高齢者の観覧を無料とする。また、児童生徒などが土曜日、日曜日に観覧する場合、および学校の教育活動などで観覧する場合の観覧料を無料とする
平成15年 9月～12月	大規模改修工事（休館）
平成19年 3月～ 7月	アスベスト除去工事（休館）
平成23年 3月11日	東日本大震災
平成25年 9月～平成26年11月	空気調和設備改修工事（休館）



美術館外観

今日の美術 —ART TODAY（前期・後期）—

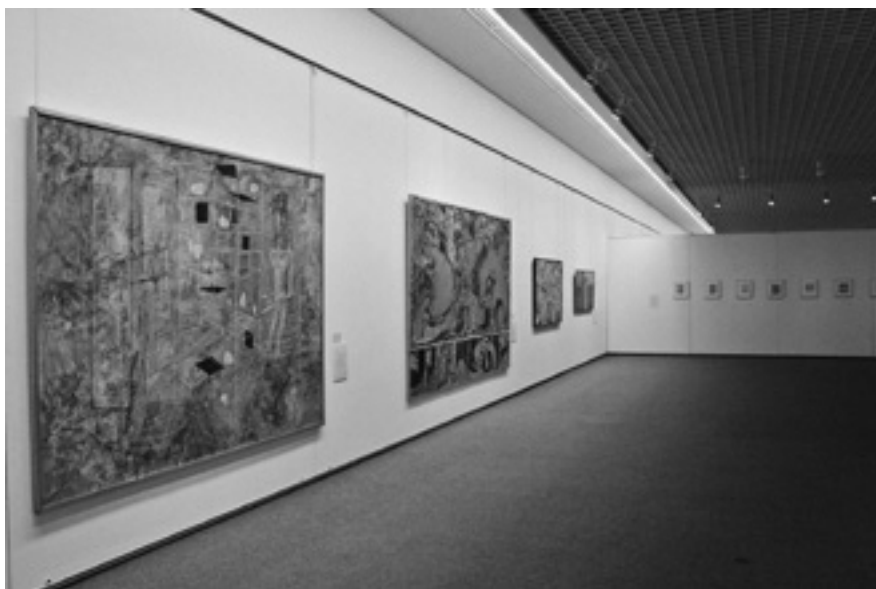
年間を前期と後期に分けて、1945年以降の内外の良質な美術といわきゆかりの美術を柱とした当館のコレクションをダイナミックに紹介しつつ、それぞれの会期に多くの鑑賞者の共感を得られるようなテーマ設定による2つの小企画（3か月間）を併せて開催することにより、より魅力のある常設展の運営に努めた。

前期の「モノクローム∞フルカラー」では、単一の色が要素となった作品から様々な色彩で満たされた作品まで、作品が示す意味や感情、情景を「色」という視点から紐解くような展示とした。後期の「〈ひと〉のかたちを求めて」では、古今東西、美術の最大のテ-

マである「人」を描いた作品を集めて展示した。人の姿を表しながらそこに複雑な現代社会やそこに生きる人間の心模様まで映し出す作品群は、まさしく時代の証言者としての現代美術の神髄であり、深い鑑賞につながることを期待した。

前期には、小企画「熱いぜ！日本。前衛の風—1960～1970—」と「'80年代日本の美術—新しい波—」を開催。内外で注目される優れた日本の現代美術を紹介した。また、後期では、メッセージ性の高い作品を集めた「もの語る美術」、小・中学生版画展に併せて版画の多様性を紹介した「多様な〈版〉の表現」の2つの小企画を開催した。

会 期	前期Ⅰ	2015年 4月 1日(水)～2015年 6月28日(日)
	前期Ⅱ	2015年 6月30日(火)～2015年 9月27日(日)
	後期Ⅰ	2015年 9月29日(火)～2015年12月20日(日)
	後期Ⅱ	2015年12月22日(火)～2016年 3月31日(木)
会 場	いわき市立美術館 常設展示室	
主 催	いわき市立美術館	



「後期Ⅰ もの語る美術」展示風景

作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	たて×よこ×高さ(cm)	素材・技法
平成 27 年度 常設前期 I 展出品リスト (平成 27 年 4 月 1 日～平成 27 年 6 月 28 日)						
■美術館へようこそーモノクローム∞フルカラー						
1	アンリ・マティス	1869-54	版画集『ジャズ』より 3. ロワイヤル氏	1947	42×32	ステンシル・紙
2	アンリ・マティス	1869-54	版画集『ジャズ』より 4. ハート	1947	38×61	ステンシル・紙
3	アンリ・マティス	1869-54	版画集『ジャズ』より 5. フォルム	1947	41×58	ステンシル・紙
4	ジョアン・ミロ	1893-83	貝	1969	77×112.5	リトグラフ・紙
5	ヴィクトル・ヴァザルリ	1906-97	TAVAS	1967-68	101×101	テンペラ・カンヴァス
6	ジョーン・ミッチェル	1926-	紫色の木	1964	161.8×114	油彩・カンヴァス
7	ジム・ダイン	1935-	森の中の二つのハート	1981	91.3×152.6	シルクスクリーン、リトグラフ・紙
8	ブリジット・ライリー	1931-	オルフェウス悲歌 I	1978	140.5×130	アクリル彩・リンネル
9	フランク・ステラ	1936-	ゲアタループ島のカラカラ	1980	155.5×224	混合技法・紙
10	サム・フランシス	1923-94	赤い十字架	1981	76×64	モノタイプ・紙
11	ポール・ジェンキンス	1923-	現象 33 のスパン	1964	97.8×194	油彩・カンヴァス
12	李 禹煥	1936-	作品 790260	1979	80.7×116.5	水彩・紙
13	李 禹煥	1936-	作品 790197	1979	81×118	鉛筆・紙
14	李 禹煥	1936-	関係項 A	1979	59.7×80.3	木版・紙
15	李 禹煥	1936-	関係項 B	1979	60×81	木版・紙
16	岡崎乾二郎	1955-	町に住んでいる子供は鬱蒼と静まる木の下に行くだけでも怖いようだけれども、友達もいない、田舎に育った私たちには怖いものがない。朝起きるとありっこないことを信じる練習をしています。えいやっと、牛の逆立ち、花や実には誘われているだけでも楽しかった。家の庭師は何も分かってはくれないけれど物事の多くは証明されぬままに残っている。	2002	180×130×5	アクリル・カンヴァス
17	岡崎乾二郎	1955-	土地のせいなのか、真夜中に突然しくしく夢うつつに泣き出したり、私たちとは違って、遠く吠える犬の声にも凍てついたりする。あなたはね、修業がたりないのよ、手伝うというのは役に立つ場所をみつめることよ。町に住みたいと空に想いを描くことだけならできるさ。まだ庭の土も冷たいし夜も少しは冷える。目を醒ましてみると雨がふっていた。	2002	180×130×5	アクリル・カンヴァス
18	岡崎乾二郎	1955-	燃えさかるぼろ布をやつぎばやに背中に何回も打ちつけられても、手は凍えて、ほとんど指を動かすこともできない。あるいは、長いあいだ何もしないでいたために体が物質に吸収されていたのか。皮膚は紫色に腫れ上がり、その場所から離れない。	1994	40×50×50	ブロンズ

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	たて×よこ×高さ(cm)	素材・技法
19	東島 毅	1960-	FMF-047	2000	240×333	ミクストメディア・カンヴァス
20	丸山直文	1964-	GRAY	1992	183×314	アクリル・綿布
21	松本陽子	1936-	自然の中の形象	1990	187×227	アクリル・カンヴァス
■小企画 熱いぜ！日本。前衛の風—1960～1970—						
22	斎藤義重	1904-01	絵画 7	1960	174×122	油彩・合板
23	斎藤義重	1904-01	Work 7	1958	90×121.3	油彩・カンヴァス
24	堂本尚郎	1960-	1961-5	1960	133×99.5	油彩・カンヴァス
25	吉原治良	1905-72	作品	1966	185×230	油彩・カンヴァス
26	白髪一雄	1924-08	天殺星黒旋風李逵	1962	182×273	油彩・カンヴァス
27	元永定正	1922-	作品	1961	183×137.5	エナメル・カンヴァス、合板
28	今井俊満	1928-02	鳴り響く嵐	1963	162×266	油彩・カンヴァス
29	杉全 直	1914-94	きっこう 白	1962	131×161.5	油彩・カンヴァス
30	田淵安一	1921-09	三元素—風、火、水	1961	195×450	油彩・カンヴァス
31	難波田龍起	1905-05	狂詩曲	1962	130×162	油彩、エナメル・カンヴァス
32	篠原有司男	1932-	鏡の中の花魁	1969	60.5×50	シルクスクリーン・紙
33	篠原有司男	1932-	モーターサイクルクイーン	1975	192.5×217× 110	カードボード、ポリエステル 樹脂、他
34	高松次郎	1936-98	遠近法の箱	1967	72.3×48.2	シルクスクリーン・紙
35	高松次郎	1936-98	遠近法のマラソン	1967	60.5×74.5	シルクスクリーン・紙
36	高松次郎	1936-98	遠近法のベンチ	1967	76.5×58.5	シルクスクリーン・紙
37	高松次郎	1936-98	英語の単語	1970	79×54.5	オフセットプリント・紙
38	高松次郎	1936-98	日本語の文字	1970	72.8×51.5	オフセットプリント・紙
39	高松次郎	1936-98	消されゆく正方形	1972	21×20	水彩、ボールペン・紙
40	高松次郎	1936-98	消されゆく円形	1972	21×20	水彩、ボールペン・紙

平成 27 年度 常設前期Ⅱ展出品リスト (平成 27 年 6 月 30 日～平成 27 年 9 月 27 日)

■美術館へようこそ—モノクローム∞フルカラー—

1	アンリ・マティス	1869-54	版画集『ジャズ』より 4. 白い象の悪夢	1947	41×64	ステンシル・紙
2	アンリ・マティス	1869-54	版画集『ジャズ』より 12. 水族館の遊泳者	1947	40.5×62.5	ステンシル・紙
3	アンリ・マティス	1869-54	版画集『ジャズ』より 13. 剣を呑む人	1947	38×60	ステンシル・紙
4	アンリ・マティス	1869-54	版画集『ジャズ』より 16. 運命	1947	41.5×62	ステンシル・紙
5	ジョアン・ミロ	1893-83	左へ向かう	1968	62×101.2	アクアチント・紙
6	ジョアン・ミロ	1893-83	老アイルランド人	1978	105.5×70.5	アクアチント・紙
7	ヴィクトル・ヴァザルリ	1906-97	TAVAS	1967-68	101×101	テンペラ・カンヴァス
8	ジョーン・ミッチェル	1926-	紫色の木	1964	161.8×114	油彩・カンヴァス
9	ジム・ダイン	1935-	森の中の二つのハート	1981	91.3×152.6	セリグラフ、リトグラフ・紙
10	ブリジット・ライリー	1931-	オルフェウス悲歌 I	1978	140.5×130	アクリル彩・リンネル
11	フランク・ステラ	1936-	グアタループ島のカラカラ	1980	155.5×224	混合技法・紙
12	サム・フランシス	1923-94	赤い十字架	1981	76×64	モノタイプ・紙
13	ポール・ジェンキンス	1923-	現象 33 のスパン	1964	97.8×194	油彩・カンヴァス
14	李 禹煥	1936-	作品 790260	1979	80.7×116.5	水彩・紙
15	李 禹煥	1936-	作品 790197	1979	81×118	鉛筆・紙
16	李 禹煥	1936-	関係項 A	1979	59.7×80.3	木版・紙
17	李 禹煥	1936-	関係項 B	1979	60×81	木版・紙

No. 作家名	生没年	作品名	制作年	たて×よこ×高さ(cm)	素材・技法
18 岡崎乾二郎	1955-	町に住んでいる子供は鬱蒼と静まる木の下に行くだけでも怖いようだけれども、友達もいない、田舎に育った私たちには怖いものがない。朝起きるとありっこないことを信じる練習をしています。えいやっと、牛の逆立ち、花や実には誘われているだけでも楽しかった。家の庭師は何も分かってはくれないけれど物事の多くは証明されぬままに残っている。	2002	180×130×5	アクリル・カンヴァス
19 岡崎乾二郎	1955-	土地のせいなのか、真夜中に突然しくしく夢うつつに泣き出したり、私たちとは違って、遠く吠える犬の声にも凍てついたりする。あなたはね、修業がたりないのよ、手伝うというのは役に立つ場所をみつめることよ。町に住みたいと空に想いを描くことだけならできるさ。まだ庭の土も冷たいし夜も少しは冷える。目を醒ましてみると雨がふっていた。	2002	180×130×5	アクリル・カンヴァス
20 岡崎乾二郎	1955-	燃えさかるぼろ布をやつぎばやに背中に何回も打ちつけられても、手は凍えて、ほとんど指を動かすこともできない。あるいは、長いあいだ何もしないでいたために体が物質に吸収されていたのか。皮膚は紫色に腫れ上がり、その場所から離れない。	1994	40×50×50	ブロンズ
21 東島 毅	1960-	FMF-047	2000	240×333	ミクストメディア・カンヴァス
22 丸山直文	1964-	GRAY	1992	183×314	アクリル・綿布
23 松本陽子	1936-	自然の中の形象	1990	187×227	アクリル・カンヴァス
■小企画 '80年代日本の美術—新しい波—					
24 堀 浩哉	1947-	ローマで鳥をみた-6	1991	227.3×364	和紙、墨、アクリル、岩絵具・カンヴァス
25 辰野登恵子	1950-	work 84-P-7	1984	259×194	油彩・カンヴァス
26 森村泰昌	1951-	美術史の娘、王女B	1990	210×160	カラー写真、透明メディウム
27 川島 清	1951-	作品 101	1989	151×95×6	鉛、鉄、鉛筆
28 根岸芳郎	1951-	84-8-4	1984	180×232	アクリル彩・カンヴァス
29 川俣 正	1955-	コンストラクション・サイト・プロジェクト「ノヴェ・デ・ジュルホ・カサパーヴァ			
		ワーキングノート (2点)	1994	各62×87	ペン、インク、鉛筆・パネル
		フォトドキュメント (3点)	1994	各62×87	写真
		カラーフォトパネル	1994	150×100	写真
		ドキュメントビデオ	1994	12分40秒	VHS ビデオテープ
30 中村一美	1956-	濡れた下草の上に立つ覚者	1991	260×182.6	油彩・カンヴァス
31 吉澤美香	1959-	は-12	1990	220×403	PP インキ・ポリプロピレン
32 増田聡子	1961-	KINA-Siegen	1989	220×330×5	油彩、アクリル彩・リネン、パネル
33 石川順恵	1961-	毛呂 1998 C	1998	273×197	アクリル、砂・カンヴァス
34 佐藤忠良	1948-11	常磐の大工 (ロビー展示)	1956	21.5×14.5×23	セメント
35 木内 克	1892-77	女の顔 (ロビー展示)	1959	35.5×24.5×41	テラコッタ

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	たて×よこ×高さ(cm)	素材・技法
平成 27 年度 常設後期 I 展出品リスト (平成 27 年 9 月 29 日～平成 27 年 12 月 20 日)						
■美術館へようこそ ― 〈ひと〉のかたちを求めて ―						
1	イヴ・クライン	1928-62	人体測定 ANT66	1960	157×311	水性メディウム・紙、カンヴァス
2	ジェームズ・ローゼンクイスト	1933-97	成長計画	1966	178×356	油彩・カンヴァス
3	ホルスト・アンテス	1936-	家族	1970-81	130.5×197	アクリル彩、油彩・カンヴァス
4	アンディ・ウォーホル	1928-87	16 のジャッキーの肖像	1964	204.8×164	アクリル彩、エナメル、シルクスクリーン・カンヴァス
5	クリスト	1935-	梱包された裸婦	1968	36×71.2	紙、ビニール、紐
6	ニキ・ド・サンファール	1930-02	鏡	1980	104×142×13	ポリエステル、鏡
7	F. フンデルトワッサー	1928-00	ボフツカワの木と移ろう恋―パースでの一週間	1975	68.6×96.5	ミクスドメディア・ファイバーボード
8	横尾忠則	1936-	葬列 II	1969-85	75×114	シルクスクリーン・アクリル
9	工藤哲巳	1935-90	遺伝染色体の中の散歩	1979	33.5×18.5×28	鳥籠、木、プラスチック、糸、その他
10	イケムレイコ	1935-	Lying on Black	1997	100×120	油彩・カンヴァス
11	イケムレイコ	1951-	深い赤に臥す	2004	60×90	油彩・カンヴァス
12	小林正人	1957-	イデーのスケッチ 1	1991	36.8×54.8	コンテ、パステル、チョーク・紙
13	小林正人	1957-	イデーのスケッチ 2	1991	55×48	コンテ、パステル、チョーク・紙
14	小林正人	1957-	イデーのスケッチ 3	1991	48×64	コンテ、パステル、チョーク・紙
15	小林正人	1957-	イデーのスケッチ 4	1991	37.5×45	コンテ、パステル、チョーク・紙
16	小林正人	1957-	イデーのスケッチ 5	1991	50×64	コンテ、パステル、チョーク・紙
17	田口安男	1930-	からみあい	1958-65	112.1×145.5	油彩・カンヴァス
18	田口安男	1930-	白いトルソー揺ー	1983	130.4×89.4	テンペラ・パネル
19	鈴木 実	1930-02	私自身の肖像	1979	80×200×260	木 (ラワン)
20	鈴木 実	1930-02	無題	1952	35.9×25.2	インク・紙
21	鈴木 実	1930-02	芳子	1958	34.8×25.6	水彩、インク・紙
22	鈴木 実	1930-02	芳子	1958頃	34.8×25.6	鉛筆・紙
23	鈴木 実	1930-02	マイホーム	1967	35.1×25.2	インク・紙
24	鈴木 実	1930-02	無題	1966	23.5×19.1	インク・紙
25	鈴木 実	1930-02	標本	1968	35.1×25.2	鉛筆・紙
■小企画 もの語る美術						
26	ロベルト・マッタ	191102	ハート・プレイヤー	1945	194.5×252	油彩・カンヴァス
27	ピエール・アレシンスキー	1927-	新聞雑報	1959	100×149.5	油彩・カンヴァス
28	ピエール・アレシンスキー	1927-	護り神	1980	200×300	アクリル彩・和紙、カンヴァス
29	レオナルド・クレモニーニ	1930-10	普通列車	1965	73.5×144.3	油彩、アルミニウム板・カンヴァス
30	河原 温	1933-14	OCT. 19.1989	1989	66×91.4	アクリル彩・カンヴァス、新聞、ボール紙ケース
31	加納光於	1933-	待つこと それゆえに 1	1983	194×390.9	油彩・カンヴァス
32	若林 奮	1936-03	無題 1	1987	23×19.3	鉛筆、インク、水彩・紙

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	たて×よこ×高さ(cm)	素材・技法
33	若林 奮	1936-03	無題 2	1987	23×19.3	鉛筆、水彩・紙
34	若林 奮	1936-03	無題 3	1987	23×19.3	鉛筆、インク、水彩・紙
35	若林 奮	1936-03	無題 4	1987	23×19.3	鉛筆、インク、水彩・紙
36	若林 奮	1936-03	無題 5	1987	23×19.3	鉛筆、インク、水彩・紙
37	若林 奮	1936-03	無題 6	1987	23×19.3	鉛筆、インク、水彩・紙
38	若林 奮	1936-03	無題 7	1987	23×19.3	インク・紙
39	若林 奮	1936-03	無題 8	1987	23×19.3	インク・紙
40	若林 奮	1936-03	無題 9	1987	23×19.3	インク・紙
41	若林 奮	1936-03	無題 10	1987	23×19.3	インク・紙
42	若林 奮	1936-03	無題 11	1987	23×19.3	インク・紙
43	若林 奮	1936-03	無題 12	1987	23×19.3	インク・紙
44	河口龍夫	1940-	失語の祈り 3.17	2011	60.6×45.5	ジェッソ、新聞紙・紙
45	河口龍夫	1940-	失語の祈り 3.20	2011	60.6×45.5	蜜蝋、天然白亜、亜鉛華、新聞紙・紙
46	河口龍夫	1940-	失語の祈り 4.17	2011	60.6×45.5	ジェッソ、水彩絵具、新聞紙・紙
47	河口龍夫	1940-	失語の祈り 7.10-3	2011	60.6×45.5	ジェッソ、水彩絵具、新聞紙・紙
48	河口龍夫	1940-	失語の祈り 10.2	2011	60.6×45.5	ジェッソ、水彩絵具、新聞紙・紙
49	河口龍夫	1940-	失語の祈り 11.13	2011-12	60.6×45.5	新聞紙、種子、鉛
50	河口龍夫	1940-	一億年前のアンモナイトから	2011	20.1×28.5	鉛筆、和紙・紙
51	河口龍夫	1940-	3500 万年前のプラタナスの葉から	2011	19.3×22.4	鉛筆、和紙・紙
52	河口龍夫	1940-	2 億 6000 万年前のシダの葉から	2011	18.4×24.6	鉛筆、和紙・紙
53	河口龍夫	1940-	5 億年前の三葉虫から	2011	12.5×18.2	鉛筆、和紙・紙
54	河口龍夫	1940-	1 億 2000 万年前のトンボから	2011	17.4×23	鉛筆、和紙・紙

平成 27 年度 常設後期Ⅱ展出品リスト (平成 27 年 12 月 22 日～平成 28 年 3 月 31 日)

■美術館へようこそ — 〈ひと〉のかたちを求めて —

1	イヴ・クライン	1928-62	人体測定 ANT66	1960	157×311	水性メディウム・紙、カンヴァス
2	ジェームズ・ローゼンクイスト	1933-97	成長計画	1966	178×356	油彩・カンヴァス
3	ホルスト・アンテス	1936-	家族	1970-81	130.5×197	アクリル彩、油彩・カンヴァス
4	アンディ・ウォーホル	1928-87	16 のジャッキーの肖像	1964	204.8×164	アクリル彩、エナメル、シルクスクリーン・カンヴァス
5	クリスト	1935-	梱包された裸婦	1968	36×71.2	紙、ビニール、紐
6	ニキ・ド・サンファール	1930-02	鏡	1980	104×142×13	ポリエステル、鏡
7	F. フンデルトワッサー	1928-00	ボフツカワの木と移ろう恋ーパースでの一週間	1975	68.6×96.5	ミクストメディア・ファイバーボード
8	横尾忠則	1936-	葬列Ⅱ	1969-85	75×114	シルクスクリーン・アクリル
9	工藤哲巳	1935-90	遺伝染色体の中の散歩	1979	33.5×18.5×28	鳥籠、木、プラスチック、糸、その他
10	イケムラレイコ	1935-	Lying on Black	1997	100×120	油彩・カンヴァス
11	イケムラレイコ	1951-	深い赤に臥す	2004	60×90	油彩・カンヴァス
12	小林正人	1957-	イデーのスケッチ 1	1991	36.8×54.8	コンテ、パステル、チョーク・紙
13	小林正人	1957-	イデーのスケッチ 2	1991	55×48	コンテ、パステル、チョーク・紙

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	たて×よこ×高さ(cm)	素材・技法
14	小林正人	1957-	イデーのスケッチ 3	1991	48×64	コンテ、パステル、チョーク・紙
15	小林正人	1957-	イデーのスケッチ 4	1991	37.5×45	コンテ、パステル、チョーク・紙
16	小林正人	1957-	イデーのスケッチ 5	1991	50×64	コンテ、パステル、チョーク・紙
17	田口安男	1930-	からみあい	1958-65	112.1×145.5	油彩・カンヴァス
18	田口安男	1930-	白いトルソー揺一	1983	130.4×89.4	テンペラ・パネル
19	鈴木 実	1930-02	私自身の肖像	1979	80×200×260	木（ラワン）
20	鈴木 実	1930-02	無題	1952	35.9×25.2	インク・紙
21	鈴木 実	1930-02	芳子	1958	34.8×25.6	水彩、インク・紙
22	鈴木 実	1930-02	芳子	1958頃	34.8×25.6	鉛筆・紙
23	鈴木 実	1930-02	マイホーム	1967	35.1×25.2	インク・紙
24	鈴木 実	1930-02	無題	1966	23.5×19.1	インク・紙
25	鈴木 実	1930-02	標本	1968	35.1×25.2	鉛筆・紙

■小企画 多様な「版」の表現

26	M.C.エッシャー	1898-72	昼と夜	1938-72	39.3×67.7	木版・紙
27	M.C.エッシャー	1898-72	巡り合い	1944	34×46.5	リトグラフ・紙
28	M.C.エッシャー	1898-72	登って降りて	1947	50.5×20.2	リトグラフ・紙
29	M.C.エッシャー	1898-72	水溜り	1952	24×32	木版・紙
30	M.C.エッシャー	1898-72	三つの世界	1955	36.2×24.5	リトグラフ・紙
31	M.C.エッシャー	1898-72	婚姻の絆	1956	25.8×33.6	リトグラフ・紙
32	M.C.エッシャー	1898-72	滝	1961	38×29.8	リトグラフ・紙
33	ジョアン・ミロ	1893-83	田園の行楽 Ⅲ	1968	58.3×92.4	アクアチント・紙
34	F.フンデルトワッサー	1928-00	緑の力	1976	83.5×63.5	シルクスクリーン、メタルプレート・紙
35	F.フンデルトワッサー	1928-00	黒い鯨の歌	1979	57×43	木版・紙
36	ビエール・アレシンスキー	1927-	海の三部作 1.Aura Negative 2.Nouvelle Couvrant 3.Mouvement Couvrant	1970	172×89.7 169.7×89.3 172×88.5	エッチング・紙 エッチング・紙 エッチング・紙
37	ジム・ダイン	1935-	森の中の二つのハート	1981	91.3×152.6	シルクスクリーン、リトグラフ・紙
38	アンディー・ウォーホル	1928-87	花（2点）	1970	91.5×91.5	シルクスクリーン・紙
39	ヤーコブ・アガム	1928-	アガモグラフィー“フェスティバル”	1972-75	39.3×37	シルクスクリーン・プラスチック
40	オノサトシノブ	1912-86	作品	1975	61×73.1	シルクスクリーン・紙
41	オノサトシノブ	1912-86	作品	1975	60.5×72.3	シルクスクリーン・紙
42	木村光佑	1936-	現在位置 フレーミング A	1971	74.5×107.2	リトグラフ、シルクスクリーン・紙
43	浜口陽三	1909-00	ぶどうの房	1968	52×21.4	カラーメゾチント・紙
44	浜口陽三	1909-00	版画集『Hamaguchi's six original color mezzotints』 3 サ克蘭ボ	1981	11.5×11.5	カラーメゾチント・紙
45	浜口陽三	1909-00	版画集『Hamaguchi's six original color mezzotints』 4 アスバラガス	1981	11.5×11.5	カラーメゾチント・紙
46	浜田知明	1919-	家族（大）	1974	28.9×22.9	エッチング、アクアチント・紙
47	浜田知明	1919-	いらいら（A）	1974	35.5×24	エッチング、アクアチント・紙
48	日和崎尊夫	1941-92	KALPA-68-A-1	1968	22.5×26	木口木版・紙

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	たて×よこ×高さ(cm)	素材・技法
49	日和崎尊夫	1941-92	KALPA- 夜	1972	33×27.5	木口木版・紙
50	原 健	1942-	STROKES 79 - 20	1979	103×69	リトグラフ・紙
51	原 健	1942-	STROKES 79 - 21	1979	103×69	リトグラフ・紙
52	加納光於	1933-	凜と花と	1959	41.2×27.1	インタリオ・紙
53	加納光於	1933-	花・沈黙	1960	36.2×42.4	インタリオ・紙
54	加納光於	1933-	星・版数学	1960	67.4×33	インタリオ・紙

肉筆浮世絵の華と艶 氏家浮世絵コレクション設立 40 周年記念

「氏家浮世絵コレクション」は、長年にわたり肉筆浮世絵の蒐集につとめた実業家・故氏家武雄氏と鎌倉市とが協力し、昭和 49 年 10 月 1 日、鎌倉国宝館内に設置された財団法人である（平成 24 年 4 月 1 日公益財団法人に移行）。同コレクション設立 40 周年を記念して開催された本展は、葛飾北斎の作品を中心に、菱川師宣、懷月堂安度、宮川長春、月岡雪鼎、喜多川歌麿、勝川春章、歌川広重らの肉筆浮世絵 57 件を展覧するもので、浮世絵研究者の永田生慈氏が監修を行った。当館における浮世絵展は 7 回目だが、肉筆画だけによる展覧会としては初めてとなる。

絵師自らが筆をとって描いた肉筆画は、一品制作のため現存数が少なく貴重であり、その細やかな筆使いや色遣いから絵師本来の技量をうかがい知ることができる。浮世絵の草

創期から幕末に至るまでの作品を網羅し、各時期を代表する浮世絵師たちが描いた名品がそろった同コレクションは、江戸時代に花開いた浮世絵の展開を辿る絶好の内容であった。

6,000 人を超えた来場者は高年齢層が目立ち、小中学生などの若年層はあまり見受けられなかった。優品が揃っていても、複数絵師による浮世絵展は、有名絵師の個展と比べて入場者が伸びない傾向にあることを改めて実感した。

会期中には、氏家浮世絵コレクション理事である河野元昭氏による講演会のほか、日本画用筆制作工程の体験講座、日本画入門講座、江戸糸あやつり人形公演を催し、様々な角度から展覧会を楽しむ機会を設けた。

会 期 2015年4月18日(土)～2015年5月24日(日)

会 場 いわき市立美術館 企画展示室

主 催 いわき市立美術館

協 力 公益財団法人氏家浮世絵コレクション、鎌倉国宝館



作品リスト

No.	作品名	員数	作者	制作年代	寸法(縦×横・cm)
1	職人尽図屏風	6 曲 1 隻	岩佐勝重	17世紀中頃	各64.2×28.5
2	桜下遊女と禿図	1 幅	菱川師宣	17世紀後半	72.3×36.7
3	美人愛猫図	1 幅	懷月堂安度	宝永(1704-11)～正徳(1711-16)頃	118.5×47.7
4	美人立姿図	1 幅	懷月堂安度	宝永(1704-11)～正徳(1711-16)頃	75.4×24.3
5	美人立姿図	1 幅	宮川長春	正徳(1711-16)～享保(1716-36)	85.3×30.9
6	男女対語図	1 幅	宮川長春	宝永(1704-11)～正徳(1711-16)	34.5×57.9
7	吉原遊楽図	1 幅	宮川長亀	享保(1716-36)～寛保(1741-44)頃	42.7×83.0
8	遊女と禿図	1 幅	宮川一笑	享保(1716-36)～元文(1736-41)頃	109.0×27.7
9	縁先美人図	1 幅	宮川長哉 (伝)	享保(1716-36)頃	85.1×32.2
10	五美人観桜図	1 幅	田村水嶋	18世紀前半	93.9×37.7
11	当流遊色絵巻	2 巻	奥村政信	18世紀中頃	上巻31.1×343.5 下巻31.1×349.5
12	美人蚊帳図	1 幅	富安	18世紀中頃	93.2×40.4
13	汐くみ美人図	1 幅	田中至信	明和(1764-72)頃	90.0×27.5
14	美人観菊図	1 幅	西川祐信	18世紀前半	42.6×64.9
15	桜下遊君立姿図	1 幅	鈴木春信	18世紀後半	85.9×26.7
16	吹雪になやむ美人図	1 幅	磯田湖龍斎	天明(1781-89)中期～後期	88.0×30.7
17	品川青楼図	1 幅	田中益信	明和(1764-72)後半	36.3×84.5
18	品川遊女まりつき図	1 幅	田中益信	明和(1764-72)後半	89.5×16.8
19	柳下美人図	1 幅	川又常正	18世紀中頃	88.8×17.2
20	しだれ桜三美人図	1 幅	月岡雪鼎	明和2年(1765)～安永7年(1778)	111.8×49.7
21	柳下美人図	1 幅	月岡雪鼎	明和(1764-72)頃	79.3×31.9
22	月下舞妓図・雪中詠歌図	2 幅	月岡雪斎	天明(1781-89)頃	各87.1×36.6
23	人形廻図	1 幅	月岡雪斎	文化9年(1812)	88.6×34.9
24	活花美人図	1 幅	勝川春章	天明(1781-89)後期～寛政4年(1792)	96.8×34.9
25	観梅美人図	1 幅	勝川春章	天明(1781-89)後期頃	90.2×30.9
26	かくれんぼ図	1 幅	喜多川歌麿	寛政元年～3年(1789-91)頃	83.5×31.3
27	萬歳図	1 面 (4 枚)	喜多川歌麿	寛政5年～8年(1793-96)頃	20.0×29.0
28	御殿山花見絵巻	1 幅	鳥文斎栄之	文化8年(1811)	29.0×162.5
29	柳下二美人図	1 幅	鳥文斎栄之	文化(1804-18)頃	101.6×34.0
30	六玉川美人図	1 幅	鳥橋斎栄里	寛政(1789-1801)後期	88.5×28.9
31	雪中傘持美人図	1 幅	鳥園斎栄深	寛政～享和(1789-1804)頃	105.3×26.3
32	助六図	1 幅	北尾政演	天明5年～6年(1785-86)頃	25.3×49.4
33	江之島富士遠望図	1 幅	司馬江漢	文化4年(1807)	31.3×83.5
34	酔余美人図	1 幅	葛飾北斎	文化4年(1807)頃	26.5×32.3
35	若衆文案図	1 幅	葛飾北斎	天保11年(1840)	73.3×32.7
36	雪中張飛図	1 幅	葛飾北斎	天保14年(1843)	132.6×43.9
37	大黒に大根図	1 幅	葛飾北斎	天保12年(1841)	86.3×42.7
38	桜に鶯図	1 幅	葛飾北斎	天保14年(1843)	97.2×45.7
39	鶴鶴図	2 曲 1 隻	葛飾北斎	文化(1804-18)中後期頃	25.1×155.8
40	春日山鹿図	1 幅	葛飾北斎	天保10年(1839)	32.5×55.8
41	三番叟図	1 幅	葛飾北斎	天保(1830-44)頃	31.2×58.0
42	寿布袋図	1 幅	葛飾北斎	嘉永元年(1848)	95.3×28.5
43	阿耨観音図	1 幅	葛飾北斎	天保15年(1844)	81.3×30.0
44	蛸図	1 幅	葛飾北斎	文化8年(1811)頃	102.5×29.2
45	小雀を狙う山かがし図	1 面	葛飾北斎	天保(1830-44)頃	28.6×81.1
46	波に燕図	1 幅 (1 面)	葛飾北斎	享和(1801-04)～文化(1804-18)前期	23.9×51.1
47	一枚物各種	11 枚のうち	葛飾北斎	天保(1830-44)頃	各26.6-37.9×26.6-40.3

No.	作品名	員数	作者	制作年代	寸法(縦×横・cm)
48	画帖	1冊 (4枚)	葛飾北斎	19世紀中頃	各34.6-38.8×26.0-27.1
49	かれい図	1幅	俵屋宗理	18世紀後半	32.2×46.2
50	娘に猿図	1幅	菱川宗理	文化(1804-18)頃	99.5×35.5
51	雪中美人図	2幅	菊川英山	文政(1818-30)頃	80.7×27.6
52	傘さし美人図	1幅	歌川国久	文化(1804-18)頃	112.6×28.0
53	七夕美人図	1幅	歌川豊勝	文政(1818-30)末頃	118.9×35.1
54	柳下二美人図	1幅	歌川豊広	寛政(1789-1801)前期	91.5×33.4
55	高輪の雪・両国の月・御殿山の花 図	3幅	歌川広重	嘉永(1848-54)～安政(1854-60)前期	各102.2×33.4
56	役者絵 (かおとはな)	34枚のうち	松楽斎眉月	文化9年(1812)	各19.1-22.2×14.1-18.0
57	役者絵 (すがたづくし)	60枚のうち	清谷	文化～文政(1804-30)頃	各15.7-18.9×7.9-8.5

美術館へようこそ 名作、大作目白押し！コレクション大公開

本展は、約1年2ヶ月にわたる空調改修工事を終え、再び開館した当館のスタートを飾る意味で、6年振りに全館展示スペースを用いて、戦後、新しい価値観によって多様化し続ける美術の状況を俯瞰しながら、あらためてコレクションを代表する優品、名作の数々を紹介するとともに、常設展示室ではなかなか紹介しきれない大型作品やスペースを必要とする組み作品にも焦点をあてた。

主な出品作品としては、アメリカン・ポップアートを代表するアンディ・ウォーホルの《16のジャッキーの肖像》、《花》(10点組)、ジェームズ・ローゼンクイストの重要作《成長計画》を始め、コレクションの中核をなすイヴ・クラインの《人体測定 ANT66》と《火の絵画》、ヘレン・フランケンサラーの《青い闘技場》、モーリス・ルイスの横幅5メートルを超える大作《ガンマ・ベータ》、フランク・ステラの《ウリッド・スケッチ》など、戦後美術の歴史を飾る重要な作家たちの優品を一堂に展示した。

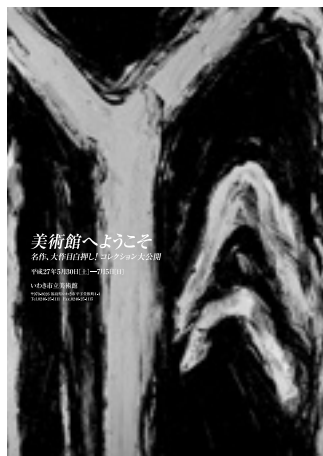
また国内作家については、1980年代以降、絵画表現の領域において注目すべき活動を展開している作家たち一辰野登恵子、中村一美、

小林正人、石川順恵、吉澤美香、東島毅の大作のほか、組み作品のためスペースを必要とし、これまで常設展では、一部作品を割愛して紹介してきた小山穂太郎《無題》(7点組)、村上友晴《Book of Hours》(8点組)、若林奮《Red Field》(18点組)も展示した。

さらに2階ロビーには、蔡國強の火薬を用いた巨大な作品《Project for Extraterrestrials 1994》(縦4m、横9m)、また1階ロビーには、60年代以降、常に創造的なエネルギーに富む作品を発表し続ける稀有な作家として高く評価されている河口龍夫の代表作のひとつに位置付けされる《ダーク・ボックス》を展示した。

そのほか企画展と連動する形で常設展小企画展では、「熱いぜ！日本。前衛の風－1960～1970」と題して、1960年代に日本のアートシーンに旋風を巻き起こした一群の作家－白髪一雄、堂本尚郎、田淵安一、元永定正、今井俊満等の作品を紹介した。また、市内在住作家がコレクションのなかから気になる作品について語るアーティストトークや特定の作品に焦点を絞ったコレクショントークを開催し、好評を得た。

会 期 平成27年5月30日(土)～7月5日(日)
会 場 いわき市立美術館 2階企画展示室及び
1、2階ロビー
主 催 いわき市立美術館



作品リスト

No.	作家名	作品名	制作年	寸法(cm)	素材
1	河原 温	OCT.19 1989	1989	66×91.4	新聞、ボール紙ケース、アクリル・キャンヴァス
2	宮島達男	Counter History	1989	①570×13×5.5 ②411×13×5.5	発光ダイオード、IC、電線、木
3	小山穂太郎	無題	1986	110×170(7点組)	ゼラチンシルバープリント、漂白
4	村上友晴	Untitled	1982-83	162×130.5	油彩・キャンヴァス
5	村上友晴	Book of Hours	1990	81.8×61.6(8点組)	鉛筆、アクリル・紙
6	若林 奮	所有・雰囲気・振動-綿を含む三角形	1984	120×43×43(3点)	銅、油絵の具、パステル
7	若林 奮	Red Field	1991	115.5×130.5(18点組)	ドライポイント・紙
8	ルーチョ・フォンタナ	作品	1960	61×49.5	リトグラフ・紙
9	ルーチョ・フォンタナ	空間概念-期待	1959-60	80×100	水性塗料・キャンヴァス
10	イヴ・クライン	火の絵画	1961	132×64	焦げた厚紙、板
11	イヴ・クライン	人体測定 ANT 66	1960	157×311	水性メディウム・紙、キャンヴァス
12	アンディ・ウォーホル	花	1970	91.5×91.5(10点組)	シルクスクリーン・紙
13	アンディ・ウォーホル	16のジャッキーの肖像	1964	204.8×164	アクリル、エナメル、シルクスクリーン・キャンヴァス
14	ジェームズ・ローゼンクイスト	成長計画	1966	178×356	油彩・キャンヴァス
15	ロバート・ラウシェンバーグ	スカイ・ガーデン	1969	225×106	シルクスクリーン、リトグラフ・紙
16	クリスト	ナショナル・ギャラリー、ローマ	1967	52×36	フォトモンタージュ、コラージュ・紙
17	クリスト	梱包された裸婦	1968	56×71.2	コラージュ(紙、ビニール、紐)
18	クリスト	Large valley curtain	1971	91.6×243.2	ドローイング、コラージュ・紙
19	デイヴィッド・ホックニー	線で描かれたリトグラフの水	1978	74×86	リトグラフ・紙
20	デイヴィッド・ホックニー	線とクレヨンで描かれたリトグラフの水	1978-80	74×86	リトグラフ・紙
21	デイヴィッド・ホックニー	線とクレヨンとブルーの薄い染料で描かれたリトグラフの水	1978-80	74×86	リトグラフ・紙
22	デイヴィッド・ホックニー	線とクレヨンと二色のブルーの薄い染料で描かれたリトグラフの水	1978-80	74×86	リトグラフ・紙
23	デイヴィッド・ホックニー	花瓶の水仙	1980	74×86	リトグラフ・紙
24	ポール・ジェンキンス	現象 野がちょうの叫び	1964	97.8×196	油彩・キャンヴァス
25	ヘレン・フランケンサラー	青い闘技場	1966	161×150.3	アクリル・キャンヴァス
26	モーリス・ルイス	ガンマ・ベータ	1960	260.4×551.2	アクリル・キャンヴァス
27	フランク・ステラ	ウリッド・スケッチ	1967	160.2×160.5	アクリル・キャンヴァス
28	辰野登恵子	Work79-P-15	1979	194×260	油彩・キャンヴァス
29	辰野登恵子	Work84-P- 8	1984	259×194	アクリル・キャンヴァス
30	中村一美	道元	1984	260×170	油彩・キャンヴァス
31	中村一美	聖	1987	260×540	油彩・キャンヴァス
32	石川順恵	毛呂 1998E	1998	293×291.1	アクリル・キャンヴァス
33	東島 毅	FF-T	2000	333.3×248.5	ミクストメディア・キャンヴァス
34	小林正人	画室=キャンヴァス	1988	195×165	油彩・キャンヴァス

No.	作家名	作品名	制作年	寸法(cm)	素材
35	吉澤美香	へー 45	1993	277×165	工業用インク・アクリル
36	蔡國 強	Project for Extraterrestrials 1994	1994	400×900	火薬、水墨・和紙（土佐）
37	蔡國 強	日々	1994	60×45(3冊)	メモ、デッサン、書簡、パンフレット、木
38	佐藤時啓	光－呼吸 四倉 7	1996	102×125	リスフィルム
39	佐藤時啓	光－呼吸 四倉 8	1996	102×125	リスフィルム
40	佐藤時啓	光－呼吸 薄磯	1996	102×125	リスフィルム
41	佐藤時啓	光－呼吸 波立 1	1996	102×125	リスフィルム
42	佐藤時啓	光－呼吸 波立 2	1996	102×125	リスフィルム
43	ジュゼッペ・ペノーネ	川になる 3	1992	30×40×30(2個)	大理石
44	土谷 武	Movement I	1977	94.5×90×137.5	軟鋼
45	土谷 武	内気と外気 B-a	1993	24×34.5×25	軟鋼
46	河口龍夫	ダーク・ボックス	1975	37×60×35	鉄、闇
47	河口龍夫	ダーク・ボックス 1998	1998	37×60×35	鉄、闇
48	河口龍夫	ダーク・ボックス 2011	2011	37×60×35	鉄、闇、闇への鉛の封書
49	河口龍夫	鎮魂の 3 月	2011	28.5×11×46	新聞紙、ジュッソ、紐、色鉛筆、種子（蓮）、蜜蝋、銅線、塗料、ウレタンニス
50	河口龍夫	手始め 1	2011	37.1×27.3	鉛筆・紙
51	河口龍夫	手始め 2	2011	37.1×27.3	鉛筆・紙
52	河口龍夫	手始め 3	2011	37.1×27.3	鉛筆・紙
53	河口龍夫	マッチ箱の中の昆虫の足－ 1	2011	1×5.6×3.6	昆虫の足、蜜蝋、硫化カドミウム、天然白亜、亜鉛華、マッチ箱
54	河口龍夫	マッチ箱の中の昆虫の足－ 2	2011	1×5.6×3.6	昆虫の足、蜜蝋、硫化カドミウム、天然白亜、亜鉛華、マッチ箱
55	河口龍夫	マッチ箱の中の昆虫の足－ 3	2011	1×5.6×3.6	昆虫の足、蜜蝋、硫化カドミウム、天然白亜、亜鉛華、マッチ箱
56	河口龍夫	マッチ箱の中の昆虫の足－ 4	2011	1×5.6×3.6	昆虫の足、蜜蝋、硫化カドミウム、天然白亜、亜鉛華、マッチ箱
57	河口龍夫	マッチ箱の中の昆虫の足－ 5	2011	1×5.6×3.6	昆虫の足、蜜蝋、硫化カドミウム、天然白亜、亜鉛華、マッチ箱
58	河口龍夫	一億年前のアンモナイトから	2011	20.1×28.5	鉛筆、和紙・紙
59	河口龍夫	3500 万年前のプラタナスの葉から	2011	19.3×22.4	鉛筆、和紙・紙
60	河口龍夫	1 億 8000 万年前の雨から	2011	27.3×28.9	鉛筆、色鉛筆、和紙・紙
61	河口龍夫	貝の未来－ 3	2011	7×26.5×29.7	貝殻、石塑、水彩絵具
62	河口龍夫	貝の未来－ 4	2011	6.9×28.5×29.7	貝殻、石塑、水彩絵具
63	河口龍夫	貝の未来－ 5	2011	3.7×13.7×16.4	貝殻、石塑、水彩絵具
64	遠藤利克	無題	1989	330×330×35	木、鉄、タール、水

アンコール・ワットへのみち —神々の彫像—展

9世紀から15世紀にかけて、現在のカンボジア領域を中心に巨大な勢力を誇ったクメール人によるアンコール王朝の、ヒンドゥー教と仏教の神仏の彫像を中心テーマに、その作風変遷と源流をたどり、また、ミャンマーやタイなど周辺の美術にもふれ、インドシナ半島における豊かな宗教彫刻の世界を紹介しようとした企画。個人コレクターと福岡市美術館所蔵の作品による構成。

いわきでは初めての本格的な東南アジアの宗教美術を紹介する展覧会となった。世界遺産になっている「アンコール遺跡群」には世界中の観光客が訪れるが、観光のツアーで遺跡を訪れても、丸彫りの彫像は博物館に展

示（保管）されていることが多く、なかなか見ることができない。今回、作風変遷が分かるよう、石彫像だけでも70点以上集め、それをガラスケースを通さない露出の展示で、石の質感なども伝わりやすく、また、さまざまな角度から見られるという貴重な機会でもあった。

会期中には、東南アジア美術に造詣の深い島津法樹氏や、岩石学のアプローチでアンコール遺跡群を研究している内田悦生氏を講師に迎えた講演会を、また、鈴木貴雄氏を講師に石彫作家の立場から展示物を見るアーティスト・トークを開催し、それぞれ好評を博した。

会 期 2015年7月18日(土)～8月30日(日)

会 場 いわき市立美術館 企画展示室

主 催 いわき市立美術館



作品リスト

No.	名称	寸法(cm)	品質	様式	時代	所蔵
001	ヴィシュヌ	高さ84	砂岩	ブノン・ダ様式	6〜7世紀	個人蔵
002	ハリハラ	高さ102	砂岩	ブノン・ダ様式	6〜7世紀	個人蔵
003	ヴィシュヌ	高さ66	砂岩	ブノン・ダ様式	6〜7世紀	個人蔵
004	禪定印のブッダ	高さ62	砂岩	アンコール・ボレイ様式	6〜7世紀	個人蔵
005	パールヴァティー	高さ105	砂岩	サンボール・プレイ・クック様式	7世紀前半	個人蔵
006	女尊	高さ115	砂岩	サンボール・プレイ・クック様式	7世紀前半	個人蔵
007	ラクシュミー	高さ67	砂岩	サンボール・プレイ・クック様式	7世紀前半	個人蔵
008	女神	高さ100	砂岩	サンボール・プレイ・クック様式	7世紀	個人蔵
009	女神	高さ98	砂岩	プレイ・クメン様式	7世紀後半	個人蔵
010	ハリハラ	高さ82	砂岩	プレイ・クメン様式	7世紀後半	個人蔵
011	ヴィシュヌ頭部	高さ37	砂岩	ブラサート・アンデート様式	7世紀末頃	個人蔵
012	女神	高さ62	砂岩	ブラサート・アンデート様式	7世紀末頃	個人蔵
013	ラクシュミー	高さ75	砂岩	コンボン・ブレア様式	8世紀	個人蔵
014	ヴィシュヌ	高さ90	砂岩	クレーン様式	9世紀前半	個人蔵
015	ヴィシュヌ	高さ58	砂岩	クレーン様式	9世紀前半	個人蔵
016	ヴィシュヌ	高さ105	砂岩	ブレア・コー様式	9世紀後期	個人蔵
017	シヴァ	高さ107	砂岩	ブレア・コー様式	9世紀後期	個人蔵
018	パールヴァティー	高さ105	砂岩	ブレア・コー様式	9世紀後期	個人蔵
019	パールヴァティー	高さ104	砂岩	ブレア・コー様式	9世紀後期	個人蔵
020	パールヴァティー	高さ109	砂岩	バケーン様式	10世紀初期	個人蔵
021	ヴィシュヌ	高さ83	砂岩	バケーン様式	10世紀初期	個人蔵
022	パールヴァティー	高さ100	砂岩	バケーン様式	10世紀初期	個人蔵
023	ヤクシャ	高さ102	砂岩	バケーン様式	10世紀初期	個人蔵
024	ヤクシー	高さ107	砂岩	バケーン様式	10世紀初期	個人蔵
025	アルダナーリーシュヴァラ	高さ109	砂岩	バケーン様式	10世紀初期	個人蔵
026	アルダナーリーシュヴァラ	高さ99	砂岩	バケーン様式	10世紀初期	個人蔵
027	ヴィシュヌ	高さ95	砂岩	バケーン様式	10世紀初期	個人蔵
028	ヴィシュヌ	高さ88	砂岩	バケーン様式	10世紀初期	個人蔵
029	ラクシュミー	高さ99	砂岩	バケーン様式	10世紀初期	個人蔵
030	ヴィシュヌ	高さ105	砂岩	コー・ケー様式	10世紀前半	個人蔵
031	ラクシュミー	高さ96	砂岩	コー・ケー様式	10世紀前半	個人蔵
032	パールヴァティー	高さ98	砂岩	コー・ケー様式	10世紀前半	個人蔵
033	シヴァ	高さ99	砂岩	コー・ケー様式	10世紀前半	個人蔵
034	アルダナーリーシュヴァラ	高さ92	砂岩	コー・ケー様式	10世紀前半	個人蔵
035	ヤクシャ	高さ64	砂岩	コー・ケー様式	10世紀前半	個人蔵
036	ヤクシャ	高さ120	砂岩	コー・ケー様式	10世紀前半	個人蔵
037	ヤクシー	高さ106	砂岩	コー・ケー様式	10世紀前半	個人蔵
038	ガルータ	高さ105	砂岩	コー・ケー様式	10世紀前半	個人蔵
039	女神	高さ110	砂岩	コー・ケー様式	10世紀前半	個人蔵
040	ラクシュミー	高さ81	砂岩	ブレ・ループ様式	10世紀第3四半期	個人蔵
041	シヴァ	高さ97	砂岩	ブレ・ループ様式	10世紀第3四半期	個人蔵
042	ブラフマー	高さ111	砂岩	ブレ・ループ様式	10世紀第3四半期	個人蔵
043	女尊（ブラジュナーパーラミターか）	高さ97	砂岩	ブレ・ループ様式	10世紀第3四半期	個人蔵

No.	名称	寸法(cm)	品質	様式	時代	所蔵
044	ヴァージムカ	高さ107	砂岩	ブレ・ループ様式	10世紀第3四半期	個人蔵
045	ヴァージムカ	高さ110	砂岩	ブレ・ループ様式	10世紀第3四半期	個人蔵
046	ガネーシャ	高さ70	砂岩	ブレ・ループ／バンテアイ・スレイ様式	10世紀後半	個人蔵
047	ブッダ	高さ98	砂岩	ブレ・ループ様式	10世紀第3四半期	個人蔵
048	男神	高さ96	砂岩	バンテアイ・スレイ様式	10世紀後半	個人蔵
049	ロケーシュヴァラ（観音菩薩） 頭部	高さ33	砂岩	バンテアイ・スレイ様式	10世紀後半	個人蔵
050	ブラジュナーパーラミター（般若波羅蜜多菩薩）	高さ116	砂岩	バンテアイ・スレイ様式	10世紀後半	個人蔵
051	ブラジュナーパーラミター（般若波羅蜜多菩薩）	高さ92	砂岩	バンテアイ・スレイ様式	10世紀後半	個人蔵
052	ティロットママー	高さ94	砂岩	バンテアイ・スレイ様式	10世紀後半	個人蔵
053	バラモン	総高68	砂岩	バンテアイ・スレイ様式	10世紀後半	個人蔵
054	ヴィシュヌ	高さ102	砂岩	バブーオン様式	11世紀	個人蔵
055	ラクシュミー	高さ86	砂岩	バブーオン様式	11世紀	個人蔵
056	シヴァ	高さ85	砂岩	バブーオン様式	11世紀	個人蔵
057	パールヴァティー	高さ92	砂岩	バブーオン様式	11世紀	個人蔵
058	女神	高さ89	砂岩	バブーオン様式	11世紀	個人蔵
059	ヴィシュヌ	高さ95	砂岩	バブーオン様式	11世紀	個人蔵
060	女尊（ブラジュナーパーラミターか）	高さ110	砂岩	バブーオン様式	11世紀	個人蔵
061	女尊	高さ99	砂岩	バブーオン様式	11世紀	個人蔵
062	ナーガの上のブッダ	高さ88	砂岩	バブーオン様式	11世紀	個人蔵
063	ヴィシュヌ	高さ99	砂岩	アンコール・ワット様式	12世紀	個人蔵
064	男神	高さ102	砂岩	アンコール・ワット様式	12世紀	個人蔵
065	女神	高さ98	砂岩	アンコール・ワット様式	12世紀	個人蔵
066	ヴァジュラサットヴァ（金剛薩埵菩薩）	高さ62	砂岩	アンコール・ワット様式	12世紀	個人蔵
067	女神	高さ110	砂岩	バイヨン様式	12世紀末～13世紀初頭	個人蔵
068	ロケーシュヴァラ（観音菩薩）	高さ95	砂岩	バイヨン様式	12世紀末～13世紀初頭	個人蔵
069	ブラジュナーパーラミター（般若波羅蜜多菩薩）	高さ91	砂岩	バイヨン様式	12世紀末～13世紀初頭	個人蔵
070	触地印のブッダ	高さ70	砂岩	バイヨン様式	12世紀末～13世紀初頭	個人蔵
071	スーリヤ	高さ106	石灰岩	シー・テップ様式	タイ 7～8世紀	個人蔵
072	説法印のブッダ	高さ95	石灰岩	ドヴァーラヴァティー様式	タイ 7～8世紀	個人蔵
073	禪定印のブッダ	高さ83	砂岩	ドヴァーラヴァティー様式	タイ 6～7世紀	個人蔵
074	ナーガの上のブッダ	高さ58	石灰岩	ドヴァーラヴァティー様式	タイ 8～9世紀	個人蔵
075	ブッダ	高さ105	砂岩	ドヴァーラヴァティー様式	タイ 8～9世紀	個人蔵
076	仏塔	高さ18.0	砂岩	シュリーヴィジャヤ様式	タイ南部 9～10世紀	個人蔵
077	アヴァローキテーシュヴァラ（観音菩薩）	高さ77	石灰岩	シュリーヴィジャヤ様式	タイ南部 7～8世紀	個人蔵

No.	名称	寸法(cm)	品質	様式	時代	所蔵
078	説法印のブッダ	高さ101	砂岩	ロップリー様式	タイ 11～12世紀	個人蔵
079	説法印のブッダ	高さ91	砂岩	バガン様式	ミャンマー 11～13世紀	個人蔵
080	ブッダ頭部	高さ34	砂岩	バガン様式	ミャンマー 11世紀～13世紀	個人蔵
081	輿の上の摩耶夫人	高さ47	砂岩	バガン様式	ミャンマー 11～12世紀	個人蔵
082	触地印のブッダと仏伝七相	高さ32.1	葉蠟石	バガン様式	ミャンマー 11～13世紀	個人蔵
083	ブッダ	高さ18.3	葉蠟石	バガン様式	ミャンマー 11～13世紀	個人蔵
084	マイトレーヤ（弥勒菩薩）	高さ18.8	青銅	タイ	8世紀頃	個人蔵
085	説法印のブッダ	高さ26.6	青銅	タイ	8～9世紀	個人蔵
086	合掌印のブッダ	高さ15.3	青銅	タイ	12～13世紀	個人蔵
087	ハーヴァジュラ	高さ28.5	青銅	カンボジア	12世紀	個人蔵
088	ヴァジュラサットヴァ（金剛薩埵菩薩）	高さ32.1	青銅	カンボジア	11世紀	個人蔵
089	女尊	高さ15.3	青銅	カンボジア	11～12世紀	個人蔵
090	女尊	高さ19.0	青銅	カンボジア	11～12世紀	個人蔵
091	五鈴杵	長さ14.8	青銅	カンボジア／タイ	11～13世紀	個人蔵
092	五鈴鈴	高さ23.2	青銅	タイ南部／インドネシア	9～10世紀	個人蔵
093	仏教の三尊	高さ10.1	青銅	カンボジア	12～13世紀	個人蔵
094	ナーガの上のブッダ	高さ18.5	青銅	カンボジア	12～13世紀	個人蔵
095	ロケーシュヴァラ（観音菩薩）	高さ13.0	青銅	カンボジア	12～13世紀	個人蔵
096	ブラジュナーバーミター（般若波羅蜜多菩薩）	高さ12.1	青銅	カンボジア	12～13世紀	個人蔵
097	ヴィシユス	高さ13.6	青銅	カンボジア	12～13世紀	個人蔵
098	女神	高さ16.7	青銅	カンボジア	12世紀	個人蔵
099	振り鼓	長さ25.2	青銅	カンボジア	12～13世紀	個人蔵
100	石灰入れ	長さ11.0	青銅	カンボジア	11～13世紀	個人蔵
101	荘厳されたブッダ	高さ22.5	青銅	ミャンマー	11世紀頃	個人蔵
102	触地印のブッダ	高さ16.1	青銅	ミャンマー	17～18世紀	個人蔵
103	無釉播座三脚壺	高さ26.5	土器	タイ	7～8世紀頃	個人蔵
104	印花象文大壺	高さ40.5	炆器	タイ	14世紀頃	福岡市美術館（本多コレクション）
105	灰釉盤口小壺	胴径8.9	陶器	カンボジア	10～11世紀	福岡市美術館（本多コレクション）
106	黒褐釉櫛目文盤口瓶	高さ23.3	陶器	カンボジア	11～12世紀	福岡市美術館（本多コレクション）
107	灰釉黒褐釉人面瓶	高さ29.2	陶器	カンボジア	11～12世紀	福岡市美術館（本多コレクション）
108	黒褐釉象形壺	高さ14.7	陶器	カンボジア	12～13世紀	福岡市美術館（本多コレクション）
109	褐釉刻花文蓋付壺	高さ19.0	陶器	カンボジア	12～13世紀	福岡市美術館（本多コレクション）
110	黒褐釉櫛目文大壺	高さ59.7	陶器	カンボジア	12～13世紀	福岡市美術館（本多コレクション）
111	鉄絵魚文台鉢	口径25.7	陶器	タイ、シーサッチャナーライ	14～15世紀	福岡市美術館（本多コレクション）

No.	名称	寸法(cm)	品質	様式	時代	所蔵
112	白褐釉象置物	高さ19.8	陶器	タイ、シーサッチャナーライ	15世紀	福岡市美術館（本多コレクション）
113	青磁刻花蓮華文稜花盤	口径28.4	磁器	タイ、シーサッチャナーライ	15世紀	福岡市美術館（本多コレクション）
114	青磁キンナラ形水注	高さ20.5	磁器	タイ、シーサッチャナーライ	15世紀	福岡市美術館（本多コレクション）
115	白釉緑彩花鳥文盤	口径30.5	陶器	ミャンマー	15世紀	福岡市美術館（本多コレクション）
116	白釉緑彩獣頭人物像磚	高さ42.3	陶板	ミャンマー	15世紀	福岡市美術館（本多コレクション）

誕生 50 周年記念 ぐりとぐら展

ふたごの野ねずみが登場する絵本『ぐりとぐら』。中川李枝子さんと山脇（大村）百合子さんの姉妹によるこの絵本は 1963 年に生まれ 50 周年を迎えた。それを記念し開催した本展では『ぐりとぐら』のお話全 7 作品の貴重な原画をはじめ、姉妹のデビュー作である童話『いやいやえん』の挿絵原画まで、50 年の軌跡 181 点の原画を紹介。また、会場には大型絵本や絵本に登場する大きな卵などの造作物も同時に展示し、まるで絵本の中に入り込んだような雰囲気を演出した。

会期が秋の行楽シーズンに重なったこと、幼児から年配者まで幅広い年代に読み継がれ

てきた人気の絵本ということもあり入場者は 22,000 人を超えた。また、幼稚園や小学校、特別支援諸学校での団体利用もあり平日でも来館者が多かった。

会期中の催しものは、作者中川李枝子先生の講演会を開催。定員を超える申し込みがあり抽選で数多くの落選者を出すなど人気の講演会となった。また、会場にはぬり絵コーナーや絵本の読書コーナーを設け、子どもから大人まで好評だった。さらに、読み聞かせ会では、会場の読書コーナーが満員になるほどの参加者があり、こちらも人気であった。

会 期 平成 27 年 9 月 12 日 (土) ~ 10 月 25 日 (日)
会 場 いわき市立美術館 企画展示室
主 催 いわき市立美術館 朝日新聞社
後 援 福島県
協 力 福音館書店
出品協力 宮城県立美術館



作品リスト

No.	作品名	掲載ページ	初出年	寸法(cm)	材質・技法
1-1	『いやいやえん』	表紙・背・裏表紙	1962年	(表紙)19.2×15.2 (背)4.5×2.4 (裏表紙)9.6×11.4	紙／インク・水彩
1-2		目次	1962年	(右)21.6×15.3 (左)21.6×15.5	紙／インク
1-3		p67	1962年	5.8×5.1	紙／インク
1-4		p70	1962年	5.7×5.7	紙／インク
1-5		p75	1962年	8.0×11.1	紙／インク
1-6		p78	1962年	7.5×4.5	紙／インク
1-7		p130	1962年	7.8×7.2	紙／インク
1-8		p135	1962年	6.2×4.9	紙／インク
1-9		p143	1962年	9.7×8.2	紙／インク
1-10		p147	1962年	11.9×10.6	紙／インク
1-11		p155	1962年	8.0×14.3	紙／インク
1-12		p158	1962年	(右)4.6×2.8 (左)4.0×5.4	紙／インク
2-1	『そらいろのたね』	p6-7	1964年	18.1×54.7	紙／インク・水彩
2-2		p10-11	1964年	17.9×54.6	紙／インク・水彩
2-3		p14-15	1964年	24.7×54.6	紙／インク・水彩
2-4		p18-19	1964年	18.1×54.8	紙／インク・水彩
2-5		p22-23	1964年	18.1×54.8	紙／インク・水彩
2-6		p26-27	1964年	24.9×54.8	紙／インク・水彩
3-1	『たからさがし』	p4	1964年	18.0×26.0	紙／インク・水彩
3-2		p5	1964年	18.1×22.9	紙／インク・水彩
3-3		p6	1964年	18.3×27.2	紙／インク・水彩
3-4		p7	1964年	18.2×21.8	紙／インク・水彩
3-5		p8	1964年	16.1×26.0	紙／インク・水彩
3-6		p9	1964年	18.2×25.8	紙／インク・水彩
3-7		p12-13	1964年	18.2×55.5	紙／インク・水彩
3-8		p20	1964年	18.3×27.8	紙／インク・水彩
3-9		p21	1964年	16.7×20.5	紙／インク・水彩
3-10		p26-27	1964年	18.2×51.1	紙／インク・水彩
4-1	『かえるのエルト』	表紙・裏表紙	1964年	38.6×51.8	紙／インク・水彩
4-2		p7	1964年	12.6×19.9	紙／鉛筆
4-3		p22	1964年	13.8×19.8	紙／鉛筆
4-4		p46	1964年	27.3×19.8	紙／鉛筆
4-5		p99	1964年	12.9×19.7	紙／鉛筆
4-6		p102-103	1964年	25.7×38.2	紙／鉛筆
5-1	『ぐりとぐら』	表紙・裏表紙	1963年	18.6×54.8	紙／インク・水彩
5-2		p2-3	1963年	19.0×54.7	紙／インク・水彩
5-3		p20-21	1963年	19.0×54.7	紙／インク・水彩
5-4		p22-23	1963年	19.0×54.7	紙／インク・水彩
5-5		p24-25	1963年	19.0×54.7	紙／インク・水彩
5-6		p26-27	1963年	19.0×54.7	紙／インク・水彩
6-1	『ぐりとぐらのおきゃくさま』	p4-5	1966年	27.3×39.4	紙／インク・水彩
6-2		p8-9	1966年	27.3×39.4	紙／インク・水彩
6-3		p16-17	1966年	27.4×39.5	紙／インク・水彩
6-4		p18-19	1966年	27.4×39.4	紙／インク・水彩

No.	作品名	掲載ページ	初出年	寸法(cm)	材質・技法
6-5		p24-25	1966年	27.3×39.5	紙／インク・水彩
6-6		p26-27	1966年	27.3×39.4	紙／インク・水彩
7-1	『ぐりとぐらのかいすいよく』	表紙	1976年	20.2×33.3	紙／インク・水彩
7-2		扉	1976年	19.8×26.5	紙／インク・水彩
7-3		p2-3	1976年	19.8×54.7	紙／インク・水彩
7-4		p6-7	1976年	19.8×54.7	紙／インク・水彩
7-5		p14-15	1976年	19.7×54.6	紙／インク・水彩
7-6		p16-17	1976年	19.8×54.6	紙／インク・水彩
7-7		p28-29	1976年	19.6×54.6	紙／インク・水彩
8-1	『ぐりとぐらのえんそく』	表紙	1979年	19.8×27.4	紙／インク・水彩
8-2		扉	1979年	19.8×27.4	紙／インク・水彩・鉛筆
8-3		p6-7	1979年	19.8×54.9	紙／インク・水彩
8-4		p10-11	1979年	19.9×54.8	紙／インク・水彩
8-5		p16-17	1979年	19.8×54.8	紙／インク・水彩
8-6		p20-21	1979年	19.8×54.8	紙／インク・水彩
8-7		p30-31	1979年	19.8×54.9	紙／インク・水彩
9-1	『ぐりとぐらとくるりくら』	表紙	1987年	19.8×27.9	紙／インク・水彩
9-2		p1	1987年	19.6×54.8	紙／インク・水彩
9-3		p2-3	1987年	19.8×54.8	紙／インク・水彩
9-4		p4-5	1987年	19.6×54.8	紙／インク・水彩
9-5		p6-7	1987年	19.7×54.8	紙／インク・水彩
9-6		p8-9	1987年	19.7×54.8	紙／インク・水彩
9-7		p10-11	1987年	19.7×54.8	紙／インク・水彩
9-8		p12-13	1987年	(p12) 19.8×26.8 (p13) 19.8×27.3	紙／インク・水彩
9-9		p14-15	1987年	19.8×54.8	紙／インク・水彩
9-10		p16-17	1987年	(p16) 19.8×27.4 (p17) 19.7×27.3	紙／インク・水彩
9-11		p18-19	1987年	(p18) 19.8×18.0 (p18-19) 19.8×18.0 (p19) 19.8×18.5	紙／インク・水彩
9-12		p20-21	1987年	(p20) 19.7×27.4 (P21) 19.7×27.4	紙／インク・水彩
9-13		p22-23	1987年	19.6×54.7	紙／インク・水彩
9-14		p24-25	1987年	19.6×54.7	紙／インク・水彩
9-15		p26	1987年	19.7×27.4	紙／インク・水彩
9-16		p27	1987年	19.7×27.5	紙／インク・水彩
9-17		p28-29	1987年	19.7×54.7	紙／インク・水彩
9-18		p30-31	1987年	19.8×54.8	紙／インク・水彩
9-19		p32	1987年	19.7×27.4	紙／インク・水彩
9-20		裏表紙	1987年	18.7×19.8	紙／インク・水彩
10-1	『ぐりとぐらとすみれちゃん』	p4-5	2000年	21.1×59.3	紙／インク・水彩
10-2		p8-9	2000年	21.0×59.3	紙／インク・水彩・ホワイト
10-3		p20-21	2000年	21.0×59.3	紙／インク・水彩
10-4		p24-25	2000年	21.0×59.3	紙／インク・水彩
10-5		p26-27	2000年	21.0×59.3	紙／インク・水彩
10-6		p28-29	2000年	21.0×59.3	紙／インク・水彩
11-1	『ぐりとぐらのおおそうじ』	表紙	2002年	25.0×29.8	紙／インク・水彩・一部ホワイト
11-2		扉	2002年	25.0×35.0	紙／インク・水彩・鉛筆
11-3		p2-3	2002年	23.8×54.1	紙／インク・水彩・鉛筆

No.	作品名	掲載ページ	初出年	寸法(cm)	材質・技法
11-4		p4-5	2002年	24.0×54.2	紙／インク・水彩・一部ホワイト
11-5		p6-7	2002年	25.5×54.1	紙／インク・水彩・一部ホワイト
11-6		p8-9	2002年	25.4×54.1	紙／インク・水彩・一部ホワイト
11-7		p10-11	2002年	25.3×54.0	紙／インク・水彩・一部ホワイト
11-8		p12-13	2002年	24.2×54.2	紙／インク・水彩・一部ホワイト
11-9		p14-15	2002年	23.9×54.2	紙／インク・水彩
11-10		p16-17	2002年	25.4×54.1	紙／インク・水彩
11-11		p18-19	2002年	25.3×54.0	紙／インク・水彩
11-12		p20-21	2002年	24.0×54.2	紙／インク・水彩
11-13		p22-23	2002年	23.9×54.2	紙／インク・水彩・鉛筆・一部ホワイト
11-14		p24-25	2002年	25.4×54.1	紙／インク・水彩・一部ホワイト
11-15		p26-27	2002年	25.3×54.1	紙／インク・水彩・一部ホワイト
11-16		p28-29	2002年	25.3×54.1	紙／インク・水彩・一部ホワイト
11-17		p30-31	2002年	26.0×54.1	紙／インク・水彩・一部ホワイト
11-18		p32	2002年	24.7×27.9	紙／インク・水彩
11-19		裏表紙	2002年	25.5×24.0	紙／インク・水彩
12-1	『ぐりとぐらの1ねんかん』	表紙	1997年	27.2×39.5	紙／インク・水彩
12-2		表紙（部分）	1997年	18.1×25.8	紙／インク・水彩
12-3		扉	1997年	27.1×39.4	紙／インク・水彩
12-4		p2	1997年	31.3×44.1	紙／インク・水彩
12-5		p4	1997年	31.4×44.0	紙／インク・水彩
12-6		p6	1997年	31.3×44.1	紙／インク・水彩
12-7		p8	1997年	31.3×44.1	紙／インク・水彩
12-8		p10	1997年	31.3×44.1	紙／インク・水彩
12-9		p12	1997年	31.4×44.1	紙／インク・水彩
12-10		p14	1997年	31.3×44.0	紙／インク・水彩
12-11		p16	1997年	31.3×44.1	紙／インク・水彩
12-12		p18	1997年	31.4×44.1	紙／インク・水彩
12-13		p20	1997年	31.3×44.1	紙／インク・水彩
12-14		p22	1997年	31.3×44.1	紙／インク・水彩
12-15		p24	1997年	31.4×44.1	紙／インク・水彩
12-16		p26	1997年	27.1×39.5	紙／インク・水彩
12-17		裏表紙	1997年	27.1×39.5	紙／水彩・インク・鉛筆
13-1	『ぐりとぐら かるた』	あ	1984年	13.7×9.9	紙／黒インク・水彩
13-2		い	1984年	13.8×9.9	紙／黒インク・水彩
13-3		う	1984年	13.8×10	紙／黒インク・水彩
13-4		え	1984年	13.7×10.0	紙／黒インク・水彩
13-5		お	1984年	13.8×10.0	紙／黒インク・水彩
13-6		か	1984年	13.7×9.9	紙／黒インク・水彩
13-7		き	1984年	13.6×10.0	紙／黒インク・水彩
13-8		く	1984年	13.7×9.8	紙／黒インク・水彩
13-9		け	1984年	13.6×9.9	紙／黒インク・水彩
13-10		こ	1984年	13.8×10.0	紙／黒インク・水彩
13-11		さ	1984年	13.7×10.0	紙／黒インク・水彩
13-12		し	1984年	13.7×10.0	紙／黒インク・水彩
13-13		す	1984年	13.6×9.8	紙／黒インク・水彩
13-14		せ	1984年	13.9×10.1	紙／黒インク・水彩
13-15		そ	1984年	13.7×10.0	紙／黒インク・水彩
13-16		た	1984年	13.7×9.9	紙／黒インク・水彩
13-17		ち	1984年	13.6×10.0	紙／黒インク・水彩

No.	作品名	掲載ページ	初出年	寸法(cm)	材質・技法
13-18		つ	1984年	13.9×9.8	紙／黒インク・水彩
13-19		て	1984年	13.5×9.7	紙／黒インク・水彩
13-20		と	1984年	13.7×10.1	紙／黒インク・水彩
13-21		な	1984年	13.7×10.0	紙／黒インク・水彩
13-22		に	1984年	13.6×10.0	紙／黒インク・水彩
13-23		ぬ	1984年	13.7×10.0	紙／黒インク・水彩
13-24		ね	1984年	13.7×10.0	紙／黒インク・水彩
13-25		の	1984年	13.7×10.0	紙／黒インク・水彩
13-26		は	1984年	13.7×10.0	紙／黒インク・水彩
13-27		ひ	1984年	13.6×10.0	紙／黒インク・水彩
13-28		ふ	1984年	13.8×10.1	紙／黒インク・水彩
13-29		へ	1984年	13.7×9.9	紙／黒インク・水彩
13-30		ほ	1984年	13.8×10.1	紙／黒インク・水彩
13-31		ま	1984年	13.8×10.2	紙／黒インク・水彩
13-32		み	1984年	13.6×10.0	紙／黒インク・水彩
13-33		む	1984年	13.6×10.0	紙／黒インク・水彩
13-34		め	1984年	13.5×10.0	紙／黒インク・水彩
13-35		も	1984年	13.6×10.0	紙／黒インク・水彩
13-36		や	1984年	13.6×9.9	紙／黒インク・水彩
13-37		ゆ	1984年	13.6×9.7	紙／黒インク・水彩
13-38		よ	1984年	13.7×9.8	紙／黒インク・水彩
13-39		ら	1984年	13.6×10.0	紙／黒インク・水彩
13-40		り	1984年	13.7×9.9	紙／黒インク・水彩
13-41		る	1984年	13.7×9.9	紙／黒インク・水彩
13-42		れ	1984年	13.8×10.0	紙／黒インク・水彩
13-43		ろ	1984年	13.8×9.1	紙／黒インク・水彩
13-44		わ	1984年	13.7×10.0	紙／黒インク・水彩
14-1	『ぐりとぐらのあいうえお』	表紙	2002年	18.0×14.2	紙／インク・水彩・鉛筆
14-2		扉	2002年	18.1×14.2	紙／インク・水彩・鉛筆・一部ホワイト
14-3		p3	2002年	18.0×14.2	紙／インク・水彩・鉛筆・一部ホワイト
14-4		p5	2002年	18.1×14.3	紙／インク・水彩・鉛筆・一部ホワイト
14-5		p7	2002年	18.0×14.2	紙／インク・水彩・鉛筆
14-6		p9	2002年	18.0×14.0	紙／インク・水彩・鉛筆・一部ホワイト
14-7		p11	2002年	17.9×14.4	紙／インク・水彩・鉛筆
14-8		p13	2002年	18.1×14.3	紙／インク・水彩・鉛筆
14-9		p15	2002年	18.0×14.4	紙／インク・水彩・鉛筆
14-10		p17	2002年	18.1×14.4	紙／インク・水彩・鉛筆
14-11		p19	2002年	17.9×14.1	紙／インク・水彩・鉛筆・一部ホワイト
14-12		p21	2002年	18.1×14.1	紙／インク・水彩・鉛筆・一部ホワイト
14-13		p23	2002年	18.0×14.1	紙／インク・水彩・鉛筆・一部ホワイト
14-14		後扉	2002年	18.1×14.4	紙／インク・水彩・鉛筆
14-15		裏表紙	2002年	18.1×14.3	紙／インク・水彩・鉛筆・一部ホワイト

山口啓介 ^{げん}原-ききとり
歩く方舟、海を渡る星図、震災後ノート

1980年代後半から「方舟」や「宇宙船」などをモチーフにした大型の銅版画で注目を集め、その後、絵画や立体作品、インスタレーションなど多彩な表現を巡りつつ、現代社会の諸相への視線や思考を孕んだ作品を世界に発信し続けている美術家、山口啓介の現在を紹介した。

2011年3月11日、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故の後、山口は研ぎ澄まされた芸術的知覚により、宇宙・自然の真理が放つ一条の光と現代社会の歪みに落とされた影との間に立ち、新たな表現の台地（プラトーン）を見出して独自の表現世界を導き出そうとする。その試みが、《歩く方舟》や《震災後ノート》などの作品として粛々と積み重ねられ、「原-ききとり」と題した本展に結実した。

出品作品は、本展のために制作した《原-ききとり 海を渡る星図Ⅰ》など、2011年3月11日以降の作品を中心としつつも、一方で、現在の山口の思考を際立たせるために必須である初期作品等も充実させ、美術というフィールドから社会を見、宇宙を描き、未来を考えることによって、神羅万象の「原」を探り、再生と鎮魂の物語を独自の表現で紡ごうとする山口啓介の現在を明るみにする内容とした。

また、展覧会鑑賞の一助として、カセットプラントによる新作《茶室 room》につながるワークショップを会期に先立ち開催、会期中は生命科学者・中村桂子氏と山口の対談「科学と芸術の汀」やピアニスト・ウォン・ウィンツァン氏が山口の作品を讃えたコンサートを開催し好評を得た。

会 期 平成27年11月7日(土)～12月13日(日)
会 場 いわき市立美術館 企画展示室、ロビー
主 催 いわき市立美術館
協 力 カセットプラント・ファクトリー、いわき芸術文化交流館アリオス
助 成 公益財団法人朝日新聞文化財団



作品リスト

No.	タイトル	制作年	寸法(cm)	素材・技法	所有者
I 生命誌（企画展示室 1-1）					
1	花の心臓／被子植物の空気柱	2003	270×181×4.5	顔料、樹脂・カンヴァス	群馬県立館林美術館
2	花の心臓／蕊柱	2003	270×181×4.5	顔料、樹脂・カンヴァス	フジカワ画廊
3	花の心臓／炭素原子モデル	2003	270×181×4.5	顔料、樹脂、自家製樹脂、 アクリル・カンヴァス	フジカワ画廊
4	井戸の上のカセットキューブ	1998	170×60×60	アクリルキューブ、木製台 座、ゴーラ（木）、シリ ン、チューブ、他	
5	『原植物 = De Urpflanze の花図譜』 原植物の循環路	2002	22×15	エッチング・紙	
6	『原植物 = De Urpflanze の花図譜』 孔雀／原植物の実	2002	22×15	エッチング・紙	
7	『原植物 = De Urpflanze の花図譜』 原植物の根	2002	22×15	エッチング・紙	
8	『原植物 = De Urpflanze の花図譜』 ベルベット／原植物 のシナプス	2002	22×15	エッチング・紙	
9	『原植物 = De Urpflanze の花図譜』 原植物の花図	2002	22×15	エッチング・紙	
10	『原植物 = De Urpflanze の花図譜』 原植物の種	2002	22×15	エッチング・紙	
11	『原植物 = De Urpflanze の花図譜』 原植物の単位	2002	22×15	エッチング・紙	
12	『原植物 = De Urpflanze の花図譜』 原植物の花弁	2002	22×15	エッチング・紙	
13	『イタリア旅行』 Cover：ローマの蒼い夜空	2001	18.2×13	エッチング、シルクスクリー ン・紙	
14	『イタリア旅行』 扉：悪魔	2001	10×8	エッチング、シルクスクリー ン・紙	
15	『イタリア旅行』 1 時間	2001	18.2×13	エッチング、シルクスクリー ン・紙	
16	『イタリア旅行』 2 イタリア旅行	2001	18.2×13	エッチング、シルクスクリー ン・紙	
17	『イタリア旅行』 3 地獄草子と原植物、イタリア越え	2001	18.2×13	エッチング、シルクスクリー ン・紙	
II 世界を映す（企画展示室 1-2）					
18	ブルトニウムの輸送	1993	250×400	油、エマルジョン、顔料、 アスファルト、紙・カンヴァ ス	
19	原子力発電所 5	1995	79.5×107	樹脂、顔料、アスファルト・ 紙	高橋龍太郎
20	象の檻（青）	1995	210×271	膠、樹脂、顔料・紙	
21	象の檻（赤）	1995	210×271	膠、樹脂、顔料・紙	
22	戦争機械 1	2010	249×400	アクリル、油彩・カンヴァス	
23	版画集『緑化砂 劣化ウランのこどもたち』	2005	53.5×39×1.8	エッチング、シルクスクリー ン・紙（18 点所収） ※サイズはシートサイズ	
III 方舟がはこぶもの 大型銅版画（企画展示室 1-3）					
24	水路 ― 王の方舟	1990	120×234	エッチング・紙	東京オペラシティ アートギャラリー
25	R N A：World ― 五つの空、五つの海	1990	180×390	エッチング・紙	東京オペラシティ アートギャラリー
26	炭素の船	1990	140×312	エッチング・紙	東京オペラシティ アートギャラリー

No.	タイトル	制作年	寸法(cm)	素材・技法	所有者
27	胞子を蒔く船		45×84.5	エッチング・紙	東京オペラシティ アートギャラリー
28	Calder Hall Ship-ENOLA GAY	1994	240×390	エッチング・紙	東京オペラシティ アートギャラリー
29	『Philadelphia Diary-1993』 no.2	1994	40.5×30.5	エッチング・紙	アートフロントギャ ラリー
30	『Philadelphia Diary-1993』 no.7	1994	13.5×30.5	エッチング・紙	アートフロントギャ ラリー
31	『Philadelphia Diary-1993』 no.10	1993	13.5×30.5	エッチング・紙	アートフロントギャ ラリー
32	『Philadelphia Diary-1993』 no.13	1994	27.3×43.7	エッチング・紙	アートフロントギャ ラリー
33	『Philadelphia Diary-1993』 no.21	1994	21×23.4	エッチング・紙	アートフロントギャ ラリー
34	『Philadelphia Diary-1993』 no.26	1994	13.5×52.2	エッチング・紙	アートフロントギャ ラリー

Ⅳ 原-ききとり (企画展示室2-1)

35	世界地図	1995	250×500	アスファルト、樹脂、顔料・ 紙	
36	原-聞きとり 海を渡る星図 ₁	2014-15	274.6×357.2	アクリル・紙	
37	海を渡る星図 ₂	2014-16	274.6×357.2	アクリル・紙	
38	広目天	2014	54.6×79.4	水彩、アクリル、鉛筆、水 性ボールペン・紙	
39	燃料集合体	2014	54.6×79.4	水彩、アクリル、鉛筆、水 性ボールペン・紙	
40	気流—漂う家の風景	2014	54.6×79.4	水彩、アクリル・紙	
41	テンベスト—流れる家	2014	54.6×79.4	水彩、アクリル、鉛筆・紙	
42	炉心収納の方法	2014	54.6×79.4	水彩、アクリル、鉛筆・紙	
43	方舟の家	2014	54.6×79.4	水彩、アクリル・紙	
44	方舟の家々	2014	54.6×79.4	水彩、アクリル・紙	
45	博士の悲しい夢	2014	54.6×79.4	水彩・紙	
46	家を積む	2014	54.6×79.4	水彩、アクリル、鉛筆、水 性ボールペン・紙	
47	六目 ₁	2014	54.6×79.4	水彩・紙	
48	六目 ₂	2014	54.6×79.4	水彩・紙	
49	丘を走る	2014	54.6×79.4	水彩、色鉛筆、鉛筆・紙	
50	星座—2010.11-18,19,20	2010	41×31.8	アクリル・カンヴァス	
51	星座—2010 年クリスマス・イブ	2010	45.5×38	アクリル・カンヴァス	
52	星座—2011 年正月	2011	45.5×38	アクリル・カンヴァス	
53	星座—2011.1-15,16,17,18,19,20	2011	45.5×38	アクリル・カンヴァス	
54	星座—Jupiter	2011	45.5×38	アクリル・カンヴァス	
55	星座—2014.6-21,22,7-2	2014	45.5×38	アクリル・カンヴァス	
56	星座—2011.11-22,12-13,2014.9-1,2	2014	41×31.8	アクリル・カンヴァス	
57	海を渡る星図			星座シリーズとアトムと素 粒子シリーズによるインス タレーション	

Ⅴ 歩く方舟 救済と再生 (企画展示室2-2)

58	『枯野と幼年期の終わり』 Walking Tree	1999- 2000	11.3×14.4	エッチング・紙	
----	---------------------------	---------------	-----------	---------	--

No.	タイトル	制作年	寸法(cm)	素材・技法	所有者
59	『枯野と幼年期の終わり』 Childhood's End	1999- 2000	36.5×26	エッチング・紙	
60	『枯野と幼年期の終わり』 Water Ball / Sea Route	1999- 2000	22×20	エッチング・紙	
61	『枯野と幼年期の終わり』 Walking Ship	1999- 2000	36.5×52	エッチング・紙	
62	『枯野と幼年期の終わり』 Kareno	1999- 2000	36.5×52	エッチング・紙	
63	『枯野と幼年期の終わり』 Over Road ²	1999- 2000	22×20	エッチング・紙	
64	方舟光の樹 ¹	2012	50.5×65.3	水彩、アクリル、色鉛筆、 鉛筆、水性ボールペン・紙	
65	方舟光の樹 ²	2012	50.5×65.3	水彩、色鉛筆、鉛筆、水性 ボールペン・紙	
66	方舟光の樹 ³	2012	50.5×65.3	水彩、色鉛筆、鉛筆、水性 ボールペン・紙	
67	版画集『歩く方舟、海を渡る叙事詩』 月夜の男木島	2013	23×17	エッチング・紙	
68	版画集『歩く方舟、海を渡る叙事詩』 歩く方舟目覚めよとの声	2013	23×17	エッチング・紙	
69	版画集『歩く方舟、海を渡る叙事詩』 炉心柱を分解する	2013	23×17	エッチング・紙	
70	版画集『歩く方舟、海を渡る叙事詩』 ファーストステップ屋島と五剣山の間	2013	23×17	エッチング・紙	
71	版画集『歩く方舟、海を渡る叙事詩』 4つの滝	2013	23×17	エッチング・紙	
72	版画集『歩く方舟、海を渡る叙事詩』 立ち泳ぎの方舟、アノマリー	2013	23×17	エッチング・紙	
73	版画集『歩く方舟、海を渡る叙事詩』 立ち泳ぎの方舟、アノマリー	2013	23×17	エッチング・紙	
74	版画集『歩く方舟、海を渡る叙事詩』 4つの炉心、光の樹が集まる	2013	23×17	エッチング・紙	
75	版画集『歩く方舟、海を渡る叙事詩』 悪魔を食らう	2013	23×17	エッチング・紙	
76	版画集『歩く方舟、海を渡る叙事詩』 ムーンファイズと浄化機械	2013	23×17	エッチング・紙	
77	震災後ノート 1～29	2013- 2015	23×17	鉛筆、水彩、色鉛筆、水性 ボールペン・紙	
78	震災後 noteroom	2014	500×205×315	震災後ノートの画像デー タ、プロジェクター、暗室	
79	歩く方舟—原プラン	2012	50.3×65	水彩、色鉛筆、鉛筆、水性 ボールペン・紙	
80	歩く方舟六本足（ファーストステップ）	2012	50.3×65	水彩、鉛筆・紙	
81	歩く方舟と男木島—原プラン	2012	50.3×65	水彩、鉛筆、水性ボールペ ン・紙	
82	歩く方舟のマケット	2012- 2013	11.2-15×36- 36.8×8.8-9	紙粘土、紙、針金、水彩	
83	歩く方舟 on いわき、玉響の休息と樟	2013	54.8×78.9	水彩・紙	
84	歩く方舟 on いわき、玉響の休息ドローイング 1	2013	39.5×54.7	鉛筆、カーボンインク、水 彩・紙	

No. タイトル	制作年	寸法(cm)	素材・技法	所有者
85 歩く方舟 on いわき、玉響の休息ドローイング 2	2013	39.5×54.7	鉛筆、カーボンインク、水彩・紙	
86 歩く方舟 on いわき、玉響の休息ドローイング 3	2013	39.5×54.7	鉛筆、カーボンインク、水彩・紙	
87 歩く方舟 on いわき、玉響の休息ドローイング 4	2013	39.5×54.7	鉛筆、カーボンインク、水彩・紙	
88 歩く方舟 on いわき、玉響の休息ドローイング 5	2013	39.5×54.7	鉛筆、カーボンインク、水彩・紙	
89 歩く方舟 on いわき、玉響の休息ドローイング 6	2013	39.5×54.7	鉛筆、カーボンインク、水彩・紙	
Ⅵ ロビー展示				
90 歩く方舟 on いわき、玉響の休息	2013	410×105×175	木・水性ペイント	
91 2 畳草庵	2015	175×175×220	カセットケース、樹脂、植物、アクリル、木、他	
92 飛地—アリオスの掛軸	2015		ミクストメディア	
93 歩く方舟 海を渡る	2015	(3分×4本)	アニメーション 原作：山口啓介 制作：郡山国際アート&デザイン専門学校	

展 覧 会 事 業
小 企 画 展

平成 27 年度 いわき市小・中学生版画展

「いわき市小・中学生版画展」は、いわき市内の児童生徒の日ごろの活動の成果を広く市民に紹介するとともに、児童生徒が造形学習や表現行為への興味と喜びを体験する機会とすることを目的に開館以来開催を続けている展覧会である。

「240cm × 240cm以内の共同制作」という作品規格も3年目を迎え、各学校に定着してきたようである。ただ、ここ数年来の参加校、参加者数の減少傾向は続いており、展示点数、来場者数ともに、展示場の賑わいという点ではやや低調な感が否めない。

来館者のアンケートも各学校の担当教員のアンケートも、展示については好意的な意見が寄せられているので、当面は現在のスタイルを踏襲しつつ参加校および参加者の増加に向けて手立てを講じて行きたい。

会期中の催しとして、フロッタージュ技法でのカードづくりに挑戦する恒例の「プリント・コーナー」を毎日開催するほか、春を祝うコンサート「目で観る打楽器の音楽」、わくわくアートスクール「小さな夢の本」などの関連事業を開催し多くの参加者を得た。

会 期 平成28年1月5日(火)～1月24日(日)
前期展示 平成28年1月 5日(火)～1月11日(月・祝)
後期展示 平成28年1月14日(木)～1月24日(日)
会 場 いわき市立美術館
主 催 いわき市教育委員会 いわき市立美術館
協 力 いわき市小学校教育研究会図画工作部会 いわき市中学校教育研究会美術部会



■参加校及び出品点数

参 加 校	59 校	小 学 校 52 校 中 学 校 3 校 特別支援諸学校 4 校	前期展示 展示点数(全て共同作品) 149 点 出 品 校 29 校 出品者数 3,904 名
出品点数	308 点	小 学 校 254 点 中 学 校 18 点 特別支援諸学校 36 点	後期展示 展示点数(全て共同作品) 159 点 出 品 校 30 校 出品者数 3,258 人
参加者数	7,162 人	小 学 校 6,576 人 中 学 校 395 人 特別支援諸学校 191 人	

■参加校一覧

◆前期展示校

【小学校】

平第一小学校
平第五小学校
平第六小学校
郷ヶ丘小学校
中央台東小学校
豊間小学校
草野小学校
四倉小学校
大野第一小学校
久之浜第二小学校
小川小学校
川前小学校
小白井小学校
白水小学校
御厩小学校
宮小学校
好間第一小学校
好間第二小学校
小名浜第一小学校
鹿島小学校
江名小学校
湯本第一小学校

湯本第二小学校
汐見が丘小学校
上遠野小学校
入遠野小学校

【中学校】

平第二中学校
平第三中学校
植田中学校

◆後期展示校

【小学校】

平第三小学校
平第四小学校
中央台北小学校
中央台南小学校
夏井小学校
赤井小学校
大浦小学校
久之浜第一小学校
小玉小学校
綴小学校
高坂小学校
高野小学校
好間第三小学校

好間第四小学校
小名浜第二小学校
小名浜第三小学校
小名浜西小学校
泉小学校
泉北小学校
渡辺小学校
湯本第三小学校
長倉小学校
磐崎小学校
植田小学校
錦東小学校
勿来第二小学校

【特別支援諸学校】

聾学校平分校
平養護学校
いわき養護学校
富岡養護学校



松本和利展－沈む…浮ぶ…変形した時をサンプリング

1970年代から80年代にかけて、いわきの若者たちによる実験的美術運動の中核となり、自らもまた、作品と鑑賞者、作品と作家、鑑賞者と作家といった既成概念を突き崩そうというコンセプトのもと革新的な作品発表を展開していた松本和利。1982年には、美大を卒業して帰郷した磯上芳久とアート・グループCELLを結成、同じく美術学校を卒業後、新しい表現を模索していた小野重治、音楽や映像を学んだ嶋崎剛らが加わりインスタレーション、パフォーマンスなどの手法を多用した多面的なアート活動を先導するリーダー的役割を担った。しかし、職業や家庭と美術活動との両立に苦慮し長きにわたり活動を停止していた。CELLの盟友であった磯上、小野各氏は、当企画ですでに紹介されているが、本来ならば、松本こそ真っ先に紹介しなければならない作家であった。25年のブランクは、当企画にとっても長い待機時間となっていた。

仕事も家庭も軌道に乗り、徐々に復活の兆しを見せていた矢先、2011年3月11日の東

日本大震災と福島第一原発の事故が引き金となり、再び、アートによるメッセージの発信を開始。25年というブランクを感じさせない、洗練された表現により、震災、津波被害、原発への憤り、焦燥、憂い、鎮魂などの心の叫びが見事に立ち現れる作品群を見せつけた。

震災後3年目には、3・11をテーマとした作品の集大成となる個展の準備に入っていたが、悪性リンパ腫の発症によりその思いを断念していた。奇しくも、本企画は、本人の意思とは異なった形とはなったものの、病魔をも味方につける勢いでさらなる転換期を迎えていた松本の3・11への魂の集大成となった。

これまでのブランクを埋めもどそうとするかのように、ほぼ毎日会場に詰め、来場者と言葉を交わしたり、自らの個展会場に必ず流すというCELLの盟友嶋崎剛の音色に聴き入る姿を見せていたが、残念ながら、会期中で病状が悪化。病床でも個展に向けた作品制作に意欲を見せていたのだが、2016年3月9日帰らぬ人となった。享年62歳であった。



会 期 平成27年7月18日(土)～8月30日(日)

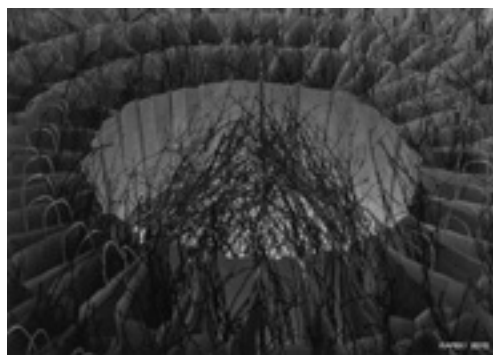
8月11日より一部展示替え

会 場 いわき市立美術館 1階ロビー

主 催 いわき市立美術館

協 力 株式会社NEXT情報はましん

印刷物デザイン：松本和利



出品作品リスト

UZU	断熱材、紙、時計
KAREKI	紙袋、木、LEDライト
群 I	プリント・紙、ポリエチレン袋
群 II	ポリエチレン袋、ビニールチューブ
KAREHA I	プリント・紙
KAREHA II	プリント・紙
KAREHA III	プリント・紙
KAREHA IV	プリント・紙
カレンダー I	プリント・紙、金具
カレンダー II	プリント・紙、金具
カレンダーボックス I	プリント・紙
カレンダーボックス II	プリント・紙
カレンダーボックス III	プリント・紙
カレンダー変形 I	プリント・紙
カレンダー変形 II	プリント・紙
カレンダー変形 III	プリント・布、LEDライト、プリント・紙
地上の涙・地下の滴 I	プリント・紙
地上の涙・地下の滴 II	プリント・紙
地上の涙・地下の滴 III	プリント・紙

環境音 “WATERPHONE” Ivan Johnson (a.k.a. 嶋崎剛) / アルバム「水の中に生まれた日 私はセラフィックな光を見た」より

NEW ART SCENE IN IWAKI
西成田育男 更地

本展は、今後の活躍が期待される市内外の作家をとりあげる企画《ニューアートシーン・イン・いわき》の一環として開催された。

西成田育男は、1954年栃木県高根沢町に生まれ、水戸市にデザイン事務所を構えながら、作家活動を展開している。当初、イラストレーションとしての作品発表を続け、日本グラフィック展や二科展デザイン部門に入賞を果たすが、1990年代に入り、絵画性を強く意識させる独自の平面作品を発表、以後今日に至るまで一貫してモノトーンを主体とする平面作品を制作・発表しており、これまで

都内及び水戸市近郊の画廊において精力的に個展を開催し、また水戸市立博物館、水戸芸術館、日立郷土博物館における企画展にも参加している。

展覧会タイトルに用いられた更地という言葉は、3.11という歴史上の特異点を境に、ことさら重い意味を放つようになり、本展に出品される西成田の新作もまたこの特異点とのかかわりの中から生み出されたものであり、被災地にある当館としても意義ある企画となった。

会 期 平成27年9月12日(土)～10月25日(日)
会 場 いわき市立美術館 1階ロビー
主 催 いわき市立美術館



出品作品リスト

《平面作品》

- ①更地／八月
2014-15年 180×200×10cm
顔料、にかわ、カゼイン・カン
ヴァス
- ②更地／黙示
2014-15年 180×200×10cm
顔料、にかわ、カゼイン・カン
ヴァス
- ③更地／慈雨
2015年 200×140×10cm
顔料、にかわ、カゼイン・カン
ヴァス
- ④更地／濱近
2015年 180×180×10cm
顔料、にかわ、カゼイン・カン
ヴァス
- ⑤更地／遅日
2014-15年 125×100×7cm
顔料、にかわ、カゼイン・カン
ヴァス
- ⑥更地／野火
2014-15年 60.5×72.5×4cm
顔料、にかわ、カゼイン・カン
ヴァス

⑦更地／静寂

2015年 70×60×5cm(4点組)
顔料、にかわ、カゼイン・カン
ヴァス

《立体作品》

- ⑧言葉にならないものがある 1
2001年 27×30×8cm
バリペーパー、写真、紙、顔料、
植物、アクリル、カンヴァス
- ⑨言葉にならないものがある
1,2,3
2001-2002年 30×27×8cm
バリペーパー、写真、紙、顔料、
植物、アクリル、カンヴァス
- ⑩更地／抜け落ちた記憶
2015年 23×30×20cm
水彩、インク、オイル・パステル、
紙、ガラス瓶、アクリル

第 45 回いわき市民美術展覧会

●書の部

一般応募 131 点 (内、青少年 16 点)
展示点数 155 点 (招待 18 点、遺作 2 点、委嘱 4 点、
一般 131 点)

●絵画・彫塑の部

一般応募 184 点 (内、青少年 16 点)
展示点数 200 点 (招待 16 点、一般 184 点)

●陶芸の部

一般応募 128 点 (内、青少年 7 点)
展示点数 139 点 (招待 11 点、一般 128 点)

●写真の部

一般応募 187 点 (内、青少年 3 点)
展示点数 190 点 (招待 3 点、一般 187 点)

第 45 回いわき市民美術展覧会 (市美展)
の応募・展示状況は、以上のとおりであった。

書の部では、昨年より 11 点増加したものの
の青少年は 10 点減となった。会期中には、
恒例の審査員による作品解説会に加え、招待
作家 10 名による「席上揮毫」が開催され、
書作の醍醐味を来館者に公開し好評を得た。
残念ながら昨年来、会の運営に長年功績の

あった招待作家 3 名が相次いで鬼籍入りして
おり、主導者層の高齢化が今後の検討課題と
なっている。絵画・彫塑の部は、前回記録的
な出品数を獲得したが、19 点の落選が要因
となったか、28 点の大幅減、青少年も 10 点
減となり、壁面長からも再び落選なしで全点
展示となった。一方、前回大幅な減となった
陶芸の部は、青少年 6 点を含む 11 点の増と
持ち直し、新設された青少年賞にも期待が集
まった。また、講師の解説を聞きながら陶作
品を手にとって鑑賞できる「タッチコーナー」
を新設し陶芸の楽しみをアピールした。一時
期は 300 点も間近の勢いだった写真の部も、
昨年比 17 点の減となり、この数年伸び悩み
が続いている。

総じて出品者の高年齢化と呼応して応募数
減少の傾向にあり、いずれの部門も青少年を
はじめとした若い世代への呼びかけに苦慮し
ている。

会 期 書の部

2016年2月 5日(金)～2月14日(日)

絵画・彫塑の部

2016年2月20日(土)～2月28日(日)

陶芸の部

2016年3月 4日(金)～3月13日(日)

写真の部

2016年3月 4日(金)～3月13日(日)

会 場 いわき市立美術館企画展示室・ロビー

主 催 いわき市民美術展覧会運営委員会
いわき市教育委員会 いわき市文化協会
いわき市立美術館

後 援 財福島県報徳社 福島民報社
福島民友新聞社 いわき民報社
NHK福島放送局 ラジオ福島 福島テレビ
福島中央テレビ 福島放送
テレビユー福島
いわき市民コミュニティ放送

協 力 いわき美術協会 いわき陶芸協会
いわき書道協会 いわきアート集団
いわき写真協会

審査員 書の部 石川大溪、松崎秋香
細井研堂、鈴木花泉(市内
の書家)
絵画・彫塑の部 木原正徳(美術家)
陶芸の部 寺本 守(陶芸家)
写真の部 金子美智子(写真家)

第45回いわき市民美術展覧会

市美展

書 の 部：平成28年2月5日(金)～2月14日(日)
絵画・彫塑の部：平成28年2月20日(土)～2月28日(日)
陶 芸 の 部：平成28年3月4日(金)～3月13日(日)
写 真 の 部：平成28年3月4日(金)～3月13日(日)

入 場 料 無料 開館時間 9:30～17:00
休 館 日 月曜日
会 場 いわき市立美術館企画展示室・ロビー
合同テブカット 2月5日(金) 9:30～(美術館2階ロビー)

作 品 公 募

主 催 財 府 県 報 徳 社、松崎秋香、細井研堂、鈴木花泉(市内の書家)
後 援 財 府 県 報 徳 社、松崎秋香、細井研堂、鈴木花泉(市内の書家)
協 力 財 府 県 報 徳 社、松崎秋香、細井研堂、鈴木花泉(市内の書家)

会期中の催し
書の部 2月7日(日) 午前11時30分(表紙作り体験)～「席上揮毫」(1階ロビー)
午後3時15分「書道展による作品解説会」(2階の展示室)
絵画・彫塑の部 2月20日(土) 午前10時30分～「招待作家による入館作品解説会」(2階の展示室)
陶芸の部 3月5日(日) 午前10時～午後3時「見学会(市民がつくった作品を鑑賞して)」
3月6日(日) 午後1時～4時「タッチコーナー」開設(陶芸の展示室)
3月8日(日) 午後1時～「招待作家による(入館)作品解説会」(2階の展示室)

●新設要項は、美術館・各公民館・各支所で必ずご確認ください。
●問い合わせは、いわき市立美術館 電話 0246-25-1111

いわき市立美術館
〒970-8000 いわき市大字宮原4-4

書の部入賞者

賞 名	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	金葉集のうた	井戸川保子	郷ケ丘
いわき市議会議長賞	永平広録	春日賢治	内郷高坂町
いわき市教育委員会教育長賞	杜甫詩	吉村翠苑	平
《佳作》			
いわき市文化協会会長賞	浦源詩	丹野清波	小名浜岡小名
福島県報徳社賞	陶淵明詩	村越紫苑	平
//	七言律詩	片寄光月	平
美術館友の会賞	臨赤壁賦卷	菜花琴雪	四倉町
有限会社トーカイ賞	薛瑄詩	伊藤松茄	平赤井
洛賞	桜	臺 麗子	遠野町滝
//	一瞬	藤田桂雪	四倉町
遠藤一心堂賞	北原白秋詩	西 恵美子	四倉町
//	臨開通裏斜道刻石	松本恵美子	平
株式会社坂本紙店賞	劉同升詩	山野遼素心	平谷川瀬
有限会社磐植賞	呉昌碩詩	新妻心葉	郷ケ丘
キョー和賞	月下独酌	馬場楊苑	郷ケ丘
書優会賞	文公の新政	馬上溪花	平中山
アーツスペース泉賞	秋の音羽山	田中リョウ	平
株式会社風雅プランニング賞	七言律詩	山川榮雪	平
//	藤克恭詩	吉田藍仙	小名浜
//	今さらに	小林きみ子	平沼ノ内
いわき書道協会賞	杜甫詩	笹田祐甫	勿来町
//	五言絶句	薄葉志千	平上平窪
//	杜甫詩	上遠野 遊	鹿島町米田
青少年賞	集字聖教序	臺 緋里	常磐上湯長谷町
//	五言絶句	鈴木弘明	平下平窪

※青少年賞は、20歳未満を対象に若手育成を目的として設けられたものであり、毎年審査員が任意に若干名選定する。

絵画・彫塑の部入賞者

賞 名	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	自然の怒り	四家友幸	中央台
いわき市議会議長賞	地殻変動	根本裕之	平泉崎
いわき市教育委員会教育長賞	祈り 天空への道	江尻敏昭	郷ケ丘
《佳作》			
いわき市文化協会会長賞	WALL・壁の彼方へ	高木武廣	小名浜
福島県報徳社賞	追憶のジョン・レノン	大塚浩司	中央台
//	まど	横山千晶	中央台
//	明るい農村	あきもと まさあき	勿来町
美術館友の会賞	悠久の刻	清水ナミ子	山田町
有限会社トーカイ賞	誕生	佐藤もと	常磐上湯長谷町
株式会社箱崎美術広告社賞	刻－軌道	久保木 舞	郷ケ丘
椿屋賞	瀑布へ向かう樹	佐藤沙月	常磐西郷町
//	憧憬	矢内有紗	平
昭文堂賞	黄昏模様 人間	木村律子	平中神谷
//	作品－14（老境悦楽－2）	伊藤集三	平下神谷

賞 名	題 名	氏 名	住 所
画廊喫茶モナミ賞	スモールイズム	平 賢一	内郷綴町
ギャラリー磐城賞	星を食べてしまった	吉田善二郎	平
アートスペース泉賞	海	鈴木義政	渡辺町上釜戸
アートスペース エリコーナ賞	無題	根本吉夫	内郷高野町

《特別賞》

青少年（ギャラリーわづくりや）賞	サンタの逆襲	吉田健人	内郷御台境町
青少年奨励（X）賞	瀑布へ向かう樹	佐藤沙月	常磐西郷町
//	憧憬	矢内有紗	平

※青少年賞は、20歳未満の出品者が対象となる。

※青少年奨励（X）賞は、美術を志す青少年育成のため、25歳以下の上位受賞者を対象にダブル授与される。

陶芸の部入賞者

賞 名	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	育ち始めた「繊細な大胆」	鈴木ゆかり	平下高久
いわき市議会議長賞	流麗	増井やよい	平
いわき市教育委員会教育長賞	彩	荻野イチ子	泉町

《佳作》

いわき市文化協会会長賞	青白磁香炉	伊藤由季子	小名浜上神白
福島県報徳社賞	釉裏紅搔落文鉢「陽光の導き」	樋田和代	小名浜下神白
美術館友の会賞	葉の鼓動	芳賀明美	中央台
M氏（いわき陶芸協会）賞	オブジェ ランプシェード(衣笠茸)	若松太久	小名浜岡小名
ギャラリー界限賞	♪踊る溪流と木もれび	横山 猛	草木台
ギャラリー磐城賞	盛華入	櫛田常雄	勿来町
アートスペース泉賞	岩膚扁壺	市川陶之臣	泉ヶ丘

《特別賞》

青少年賞 学校法人山崎学園賞	鬼灯と雲	黒田美紗	郷ヶ丘
----------------	------	------	-----

※青少年特別賞は、若手育成を目的とした賞で20歳未満の出品者を対象とする。（新設）

写真の部入賞者

賞 名	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	耐える	根本隆意	内郷御台境町
いわき市議会議長賞	めんこいネ	長谷川清夫	四倉町
いわき市教育委員会教育長賞	風雪と舞う	齋藤吉久	平下神谷

《佳作》

いわき商工会議所会頭賞	鳥居が消えた日	横山 孝	石森
いわき市文化協会会長賞	なかよし	早坂慧子	平赤井
福島県報徳社賞	彩りの刻	長谷川恵子	四倉町
美術館友の会賞	人馬一体	高橋済男	錦町
社団法人 いわき観光まちづくりビューロー賞	輪（りん）	馬場喜代治	四倉町
//	あそぼうよう	山本敏和	中央台
福島県営業写真館協会いわき支部賞	幻想	中川 司	好間町上好間
昭文堂賞	春艶	加澤都子	小名浜
東日本国際大学賞	杜快	増井俊一	平

賞 名	題 名	氏 名	住 所
YK写真工房賞	杜の祭	森谷祐治	鹿島町船戸
小百合賞 街馨植	残月と渡り鳥	早坂公男	平赤井
カメラのキタムラ賞	星降る山櫻	丹野 稔	平谷川瀬
カメラの矢吹賞	秋穫	湯田由美	平
いわき写真協会賞	長寿の笑顔	佐藤加世子	平
常磐工業株式会社賞	激走、大空へ！	橋本一徳	若葉台
イタリアンレストラン テラツツア賞	別れ	石川義紀	小名浜
丸貞かまぼこ賞	波濤	園部憲子	北茨城市大津町北町
源グループ賞	星夜	鈴木達也	平
だいこん家賞	ヴェール	酒井英治	山田町
有限会社 プディングアリス賞	水中花	久田和江	平
写真ギャラリーコールビット賞	牙をむく怒濤	四家 和也	内郷高坂町
ミモザギャラリー賞	メルヘン！	茜 潤	桜ヶ丘
丸秀水産株式会社賞	最高潮（秩父夜祭）	泉 武子	金山町

普及事業
移動美術館

東日本大震災以降、アートを通して日常生活に活気と潤いをもたらすことを目的に試行してきたアウト・リーチ事業。本年度より普及事業として継続が可能となり、年齢を問わず、気軽に楽しめるワークショップ・プログラムを持参して、いわき市内を巡る移動美術館として充実を図る。本年度は次の8プログラムを準備し、希望者を公募実施した。

日時	講師	講座名(内容)	会場
通年、39回		元気になるアート・キャラバン2015	
5月20日 6月6日 7月1日 12月5日	梶塚宏之 (日本茶インストラクター) 高原あかね (日本茶アドバイザー)	お茶のおいしさ、お茶の楽しみ お茶の専門家といっしょに、お茶(煎茶)を日常的に役立てる方法やお茶の入れ方、季節ごとの楽しみ方、マナーやおもてなしの心を学ぶ。	大浦小学校 白土保育所 下三坂集会所 飯野公民館
6月20日 9月7日 9月9日 10月2日	織田千代 (造形作家)	織って、編んで、楽しいオブジェ作り たて糸とよこ糸を編み込む織の技法を応用し、これまでの織のイメージを覆す楽しいオブジェ作りを体験。	平第三中学校 平老人福祉センター 大浦小学校 磐城学芸専門学校
5月21日 6月13日 7月9日 8月7日 8月20日 12月4日	当館学芸員	世界にひとつだけのグラスアート ルーターを用いガラス製品に模様を描きこむ体験。図柄は、型紙シールを用いた簡単なものから自分で考えたオリジナルまで自由に選択して体験できる。	雇用促進住宅いわき宿舎集会所 藤原公民館 豊間公民館 四倉公民館 あざみ野幼稚園 いわき南台第二集会所
6月10日 6月19日 6月25日 7月23日 7月28日 9月25日 10月8日 12月9日 1月19日	当館学芸員	切り絵・切り紙の楽しい世界 カッターを用い好みの下絵を切り抜く切り絵コースと、複数回折った紙をハサミで切って開いて手軽に複雑な文様が作れる切り紙コースの2コースを設置。	大浦小学校 錦公民館 小川公民館 上市萱公民館 洋光台集会所 中三坂公民館 大浦公民館 四倉公民館 中央公民館
5月27日	当館学芸員	帯からくり	磐城学芸専門学校
6月18日 8月4日 9月3日 9月16日 10月1日 10月16日 10月20日 10月31日 11月12日 11月18日 11月19日	当館学芸員	岩絵具で遊んじゃおう! 日本画用の絵の具を用いた塗り絵体験。季節の風物や浮世絵、草花など、好みの下絵を色紙に写し、自由に彩色して色紙絵を完成させる。	平老人福祉センター 好間二小児童クラブ 飯野公民館 入遠野公民館 菊田保育所 磐城学芸専門学校 内郷老人福祉センター 好間第三小学校 四倉老人福祉センター 夏井公民館 上遠野公民館



アート・キャラバン「お茶のおいしさ、お茶の楽しみ」



アート・キャラバン「織って、編んで、楽しいオブジェ作り」



アート・キャラバン「世界にひとつだけのグラスアート」

日時	講師	講座名(内容)	会場
7月24日 8月5日	当館学芸員	コロコロオブジェに夢中 針金造形作家の橋寛憲氏考案のコロコロオブジェを氏の許可を得て紹介するプログラム。針金の道をビー玉がコロコロ転がる楽しい装置をダンボールと針金を駆使してオブジェに仕上げる。適度な難易度もあり、親子工作教室にも適している。	小川公民館 四倉公民館
9月10日 11月17日	当館学芸員	セミナー 色いろいろ・・・色の効用再発見	草野公民館 中央公民館

普及事業 講演会

展覧会の開催に併せて、出品作品やその背景の理解を深めるために、専門の講師を招き開催。セミナー室を会場とした講演会、また、展示室の展示作品を前にしてのアーティストトークや対談など、様々なスタイルで鑑賞者の作家・作品への興味を喚起するような内容で実施した。

日時	講師	講座名(内容)	会場
5月9日	河野元昭 (氏家浮世絵コレク ション財団理事、東 京大学名誉教授)	氏家浮世絵コレクションにみる江戸絵画の魅力 「肉筆浮世絵の華と艶」展に併せて開催。氏家浮世絵コレクションを通じて、浮世絵の成り立ちと発展経過をわかりやすく解説。	セミナー室
6月14日	吉田重信 (作家)	アーティスト・トーク1「私とコレクション」 「美術館へようこそ」展の関連事業として開催。内外で活躍する市内在住の作家が、いわき市立美術館の収蔵作品と自分の制作についての関連等についてトーク。	企画展示室
7月5日	山本伸樹 (作家)	アーティスト・トーク2「私とコレクション」 「美術館へようこそ」展の関連事業として開催。内外で活躍する市内在住の作家が、いわき市立美術館の収蔵作品と自分の制作についての関連等についてトーク。	企画展示室
7月18日	島津法樹 (東南アジア美術研 究家)	クメール彫刻の時代と形の変遷 「アンコール・ワットへのみち」展に併せて開催。プレ・アンコール時代からアンコール王朝時代の彫像、また周辺の彫像について、様式の変遷を展示作品を例に挙げて概説。	セミナー室
7月26日	内田悦生 (早稲田大学教授)	アンコール遺跡の謎を解くー岩石学からのアプローチ 「アンコール・ワットへのみち」展に併せて開催。アンコール遺跡群の概要説明のあと、建造物に使われている石についての科学的調査の結果と、それらによって可能になった遺跡の建造時期推定などについて説明。	セミナー室
8月22日	鈴木貴雄 (彫刻家)	アーティスト・トーク 「石彫作家とクメールの彫刻を見る」 「アンコール・ワットへのみち」展に併せて開催。展示作品の中から10点ほどの作品を選び、実際に手彫りで作品を制作をしている講師ならではの解説を行った。	企画展示室
9月19日	西成田育男 (作家)	西成田育男展 アーティスト・トーク 「ニューアートシーン・イン・いわき 西成田育男」展に併せて開催。	企画展示室



アート・キャラバン「切り絵・切り紙の楽しい世界」



アート・キャラバン「帯からくり」



アート・キャラバン「岩絵具で遊んじゃおう！」

日時	講師	講座名(内容)	会場
11月7日	山口啓介 (美術家)	アーティスト・トーク「原-ききとり 歩く方舟、海を渡る星図、震災後ノート」 「山口啓介 原-ききとり」展関連事業。展示室で作家が自作を前にしてトーク。	企画展示室
12月6日	中村桂子 (JT生命誌研究館館長) 山口啓介 (美術家)	対談「科学と芸術の汀 “自然”と“人間”」 「山口啓介 原-ききとり」展関連事業。生命誌という新しい科学分野を創り上げた中村桂子氏と山口啓介による対談。震災、そして原発事故を経験した現代、科学と芸術の目指す方向の共通点等について話しが及んだ。	企画展示室

普及事業 美術講座

展覧会鑑賞の一助として、また、様々な美術の情報の提供を目的として当館学芸員が講師となり随時開催している。

日時	講師	講座名(内容)	会場
5月31日	当館館長	コレクションを語る 「美術館へようこそ」展に併せて開催。	セミナー室
12月12日	当館館長	美術館長講座「ヴィーナスの誕生」	セミナー室
2月20日	当館館長	美術館長講座「ラピスラズリの美術史」	セミナー室

普及事業 ギャラリー・トーク

作品鑑賞の一助として、常設展では毎週土曜日に、企画展では土曜日・日曜日を中心に開催。また、団体、個人に限らず要望に応じて随時実施している。

日時	講師	講座名(内容)	会場
毎週土曜日 (45回開催)	当館学芸員	常設展 定期開催の常設展の作品解説。	常設展示室
通年、随時 (21回開催)	当館学芸員	団体解説等 常設展、及び企画展の団体鑑賞につき、希望に応じて随時実施。	常設展示室、企画展示室
6月6日 6月20日 7月4日	当館学芸員	美術館へようこそ 名作、大作目白押し！コレクション大公開 「美術館へようこそ」展の関連事業として開催。	企画展示室
7月25日	当館学芸員	「神々の彫刻 アンコール・ワットへのみち」展 「アンコール・ワットへのみち」展の関連事業として開催。	企画展示室
11月15日 12月12日	当館学芸員	山口啓介 原-ききとり 歩く方舟、海を渡る星図、震災後ノート ギャラリー・オリエンテーリング 「山口啓介 原-ききとり」展関連事業。作品鑑賞のチェックポイントが記された会場のギャラリーマップを見ながら、ゲーム感覚で作品の鑑賞を進めた。	企画展示室



アーティスト・トーク「山口啓介 原-ききとり」



対談「中村桂子×山口啓介 科学と芸術の汀」



講演会「氏家浮世絵コレクションにみる江戸絵画の魅力」

普及事業 ワークショップ

美術、造形に限定しない幅広い表現活動について、専門の講師を中心に実技習得から応用まで参加者の自主性に多くを委ねる形で実施。山口啓介展に関連し、プレワークショップ、サテライトワークショップ、新作《2畳草庵》の制作ボランティアなどなど、多彩なスタイルで開催した。

日時	講師	講座名(内容)	会場
7月13日	土屋裕子 (四倉高校教諭) 当館学芸員	山口啓介 原-ききとり カセットプラント・サテライトワークショップ on 四倉高校2年3組 「山口啓介 原-ききとり」展の関連催し。展覧会に展示するカセットプラントを制作するサテライトワークショップ。つくったカセット300個は、校舎階段の踊り場の窓に展示。	四倉高校
7月7日～ 11月4日 (23回)	当館学芸員	カセットプラント・ファクトリーいわき(ボランティア) 「山口啓介 原-ききとり」展の開催に向けたカセットプラントによる新作《2畳草庵》の制作補助ボランティア。植物の採取、乾燥、樹脂の流し込みなど一連の制作過程を補助。	実技講習室
7月24日～ 11月26日 (3日間)	当館学芸員	2015・夏 '美術館的'自由研究のススメ 夏休み恒例の常設展を中心としたワークショップ。常設展のギャラリートーク、バックヤードツアーで参加者それぞれが見つけたテーマを掘り下げるワークショップ。最終日には研究発表会を開催。	セミナー室、常設展示場
8月4日	羽根真実子 (いわき総合高校教諭) 当館学芸員	山口啓介 原-ききとり カセットプラント・サテライトワークショップ on いわき総合高校美術部 「山口啓介 原-ききとり」展の関連催し。展覧会に展示するカセットプラントを制作するサテライトワークショップ。以降、11月の展覧会に向けて学校の美術室で制作をつづけた。	実技講習室
10月3日	山口啓介 (美術家) 山口作子 (カセットプラント・ファクトリー代表)	山口啓介 原-ききとり カセットプラント・サテライトワークショップ on いわき芸術文化交流館アリオス 「山口啓介 原-ききとり」展のプレ・ワークショップ。山口啓介のカセットプラントを体験。展覧会のオープンに向けてアリオストの連携を継続。	いわき芸術文化交流館アリオス
10月4日	山口啓介 (美術家) 山口作子 (カセットプラント・ファクトリー代表)	山口啓介 カセットプラントワークショップ いわきの高校生とともに 「山口啓介 原-ききとり」展のプレ・ワークショップ。いわき市内の高校美術部の部員たちが山口啓介のカセットプラントを体験。12月開催の福島県高校美術連盟いわき大会の山口啓介氏による講演会、展覧会鑑賞へと繋がった。	セミナー室、1階ロビー
11月7日	山口啓介 (美術家)	山口啓介 原-ききとり オープニング・ワークショップ「山口啓介/カセット・プラント」 「山口啓介 原-ききとり」展の開幕に併せて開催。作家を中心にカセットプラント作品を制作。引き続き期間中のオープンワークショップへと制作継続。	1階ロビー
11月7日～ 12月13日	当館スタッフ	カセットプラント・オープンワークショップ 「山口啓介 原-ききとり」展の会期中毎日開催。カセットプラントによる作品づくりを随時、自由に体験できるワークショップ。	1階ロビー



ギャラリー・トーク「美術館へようこそ」展



公開制作「技!筆づくり」



カセットプラント・サテライトワークショップ on 四倉高校

日時	講師	講座名(内容)	会場
1月24日 (2回)	田中淑恵 (製本作家)	わくわくアートスクール「小さな夢の本」 「いわき市小・中学生版画展」恒例の大人から子供まで楽しめるワークショップ。今回は講師考案の8ページの豆本制作ワークショップとして開催。午前、午後の2回開催。	実技講習室
1月5日～ 1月24日	当館スタッフ	プリントコーナー 「いわき市小・中学生版画展」の会期中、毎日随時参加のスタイルで実施。予め用意した「型」を色鉛筆などでこすり出すフロッター技法でオリジナルカードを作る子供も大人も楽しめる版画体験ワークショップ。	1階ロビー特設会場
3月11日	百瀬寿 (収蔵作家)	収蔵作家ワークショップ 百瀬寿の「ももいろグラデーション」(県立ろう学校平分校) 当館の収蔵作家による恒例のサテライトワークショップ。聴覚に障害を持つ子供たちが、百瀬寿の表現の手法にならい、「色」を楽しみ、「色」で感情や情景を表現することを楽しみながら、作品を仕上げた。	福島県立ろう学校平分校
3月12日～ 3月13日	百瀬寿 (収蔵作家)	収蔵作家ワークショップ 百瀬寿の「ももいろグラデーション」 当館の収蔵作家による恒例のワークショップ。「色」を楽しむ「色」感情や情景を表現する楽しさを体験するワークショップ。暗室にはりめぐらせた蛍光テープがブラックライトで浮かび上がる「色」の空間構成作品を参加者全員で完成させた。	セミナー室、 1階特設会場

普及事業 実技講座

開催中の展覧会に関連したプログラムや、普段体験する機会がなかなかない技法や表現方法を取り上げ実施。

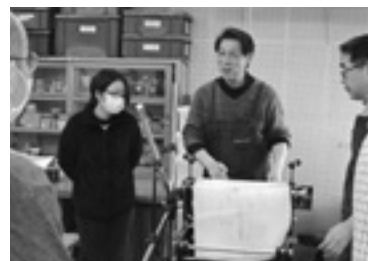
日時	講師	講座名(内容)	会場
5月2日～ 5月3日 (2日間)	久保木桂子 (日本画家)	「肉筆浮世絵に触れる～日本画入門～」 「肉筆浮世絵の華と艶」展に関連して開催。2日間通しで、展示作品の葛飾北斎《酔余美人図》を模写し、日本画の基礎的な技法を学ぶ。紙のドーサ引きから、裏打ち、胡粉・絵の具の溶き方、彩色など一連の行程をすべて2日間で体験する。参加者は熱心に模写を仕上げていた。	実技講習室
8月8日～ 8月9日 (2日間)	鈴木貴雄 (彫刻家)	「石彫～レリーフの美～」 「アンコール・ワットへのみち」展に関連して開催。2日間通し。ハンマーと石ノミを使って砂岩(40×40×5cm)を彫りレリーフ(浮き彫り彫刻)を制作する。石彫のコツをつかむまでに時間がかかっていたようだが、コツをつかむと参加者はどんどん掘り進んでいた。	実技講習室 トラックヤード
11月28日～ 11月29日 12月5日 (3日間)	山口啓介 (美術家)	「作家とコラボ⇔銅版画を楽しもう」 「山口啓介 原-きとり」展に関連して開催。山口啓介氏の銅版画の手法により作品を制作。講師と参加者がお互いに影響を与えながら最高の一枚を刷り上げた。	実技講習室
3月19日～ 3月20日 (3回)	本間ますみ (ペットボトルアーティスト)	ペットボトルがアートへ！！干支シリーズ「辰(ドラゴン)」 講師が用意した下絵をもとに、ペットボトルにドラゴンの形を写す。そしてはさみで切り抜き、ハンダゴテで鱗や髭などの模様を描き完成させた。ペットボトルは硬くもとの形のクセがついているため扱いにくい材料であったが、参加者は出来上がった作品に満足そうであった。	実技講習室



カセット・プラントワークショップ on いわき
芸術文化交流館アリオス



わくわくアートスクール「小さな夢の本」



実技講座「作家とコラボ⇔銅版画を楽しもう」

普及事業 公開制作

実技講座と連動して開催。多くの人に講師の制作過程を紹介すると同時に実技講座の導入としても位置付けて開催。

日時	講師	講座名(内容)	会場
4月25日	阿部悠季 (画筆清晨堂筆職人)	「技！筆づくり」 「肉筆浮世絵の華と艶」展に関連して開催。画筆の歴史、筆の特徴、原料、制作手順の講義を受けたあと、筆づくりの現場を見学する。その後、筆づくりの一部を体験し、即妙筆を完成させた。この筆は、実技講座「肉筆浮世絵に触れる～日本画入門～」で使うものと同じもので実技講座参加者も数多く参加していた。	セミナー室 実技講習室
3月19日～ 3月20日	本間ますみ (ペットボトルアーティスト)	ペットボトルがアートへ！！千支シリーズ「辰(ドラゴン)」 講師の作品数点と制作の様子を公開。制作過程は実技講座の導入でもあり、実技講座参加者も見学。ペットボトルで作られた「雀」や「あじさい」の作り方について解説を受けた後に、ペットボトルアートの技法について説明を受けながら「辰(ドラゴン)」が完成する様子を見学。	実技講習室

普及事業 映像鑑賞会

映像ソフト（DVD等）の利用により、主に企画展にあわせた映像鑑賞会を開催する催し。

日時	講師	講座名(内容)	会場
(本年度は、映像鑑賞会は未開催。)			

普及事業 コンサート& パフォーマンス

企画展、常設展とその都度連動させながら、時代とともに多様化する表現芸術を様々な角度から紹介、検証する試み。多岐に渡る時代の雰囲気や垣間見る機会であるとともに、美術と異ジャンルとの積極的な関わりが生み出す相乗効果を体感できるよう心がけている。

日時	講師	講座名(内容等)	会場
5月24日	上条 充 (人形遣い) 福田久美子 (人形遣い)	日本の芸「江戸糸あやつり人形」 江戸あやつり人形の歴史、構造、操作方法などの説明をしながら、4体の人形を駆使した「かっぱれ」「酔いどれ」「黒髪」「獅子舞」の演目を公演。庶民的な江戸の伝統芸の巧みさ、奥深さを会場一体となって味わった。	1階ロビー
9月20日、 10月18日	JPIC読書アドバイザー ザークラブ福島支部	絵本の読み聞かせ 「ぐりとぐら展」にあわせ、中川、山脇姉妹の代表的絵本の数々を読み聞かせによって紹介する事業。耳からの心地よい言葉と挿絵の楽しい世界が醸し出す読み聞かせ独特の味わいを大勢の家族が楽しんだ。	企画展示室
11月7日	ウォン・ウィンツァン (ピアニスト)	ウォン・ウィンツァン・ピアノ・ソロ・コンサート 「瞑想のピアニスト『奇跡のピアノ』を弾く」 「山口啓介 原-ききとり」展に寄せて、ウォン氏が東日本大震災から復活した「奇跡のピアノ」を演奏するコンサート。山口氏の作品に着想したオリジナル曲の演奏や山口夫人で歌手の山口作子氏との即興演奏など、被災地の復興への力強いエールと祈りを表現。	1階ロビー



日本の芸「江戸糸あやつり人形」



ウォン・ウィンツァン・ピアノ・ソロ・コンサート
「瞑想のピアニスト『奇跡のピアノ』を弾く」



春を祝うコンサート「目で観る打楽器の音楽」

日時	講師	講座名(内容等)	会場
1月11日	小野周二(打楽器) 小菅しほり(打楽器) 向田早希(打楽器)	春を祝うコンサート／パフォーマンス「目で観る打楽器の音楽」 打楽器の魅力を現代美術作品といっしょに紹介するコンサート。いわき市出身の打楽器奏者らが、オリジナル曲や現代音楽の中から、打楽器だけにによる魅力的な曲目、見た目にも楽しい演奏スタイルの数々を披露した。	常設展示室

普及事業

出版

● THE GALLERY =いわき市立美術館ニュース

当館のニュースとして「THE GALLERY」を2回発行した。

No.60 (平成27年10月17日発行)

- ・いわき市立美術館の普及事業 その1 アート・キャラバン 2015 (普及係長 柴田百合子)
- ・企画展紹介 山口啓介 原-ききとり 歩く方舟、海を渡る星図、震災後ノート (専門学芸員 植田玲子)
- ・展示室から 作品の来歴に注目！ (主任学芸員 竹内啓子)
- ・裏方だより 「アンコール・ワットへのみち―神々の彫像―」展 搬出作業 (学芸課長 杉浦友治)
- ・常設展示室から 夏の思い出 (専門学芸員 植田玲子)
- ・コレクション―この1点 新収蔵作品から 大宮昇《磐城炭硯綴坑》(スケッチブック「炭鉱(1)」から) (学芸課長 杉浦友治)
- ・今後の主な展覧会事業のご案内

No.61 (平成28年3月25日発行)

- ・いわき市立美術館の普及事業 その2 公開制作 (普及係長 柴田百合子)
- ・企画展紹介 市制施行50周年記念 女性を描く―クールベ、ルノワールからマティスまで (学芸課長 杉浦友治)
- ・企画展紹介 田口安男―描線と色彩の間― (専門学芸員 植田玲子)
- ・企画展紹介 明治有田 超絶の美 万国博覧会の時代 (主任学芸員 竹内啓子)
- ・展示室から ぐりとぐら展 (学芸員 江尻英貴)
- ・裏方だより 収蔵品の貸し出し (主任学芸員 竹内啓子)
- ・常設展示室から ～おたより～ (専門学芸員 植田玲子)
- ・コレクション―この1点 新収蔵作品から 中村一美《聖Ⅲ (ヴィバシン [毘婆尸仏])》 (副館長 平野明彦)
- ・今後の主な展覧会事業のご案内



●いわき市立美術館年報

平成26年度年報 B5判 54ページ

●展覧会図録等

- | | |
|-------------------------------|---------------------|
| 美術館へようこそ | A4判 観音開き四つ折り (8ページ) |
| 山口啓介展 本編 | 26×19cm 142ページ |
| 別冊 | 26×19cm 64ページ |
| 美術館へようこそ 名作、大作目白押し！コレクション大公開 | A4判 巻き三つ折り (6ページ) |
| NEW ART SCENE IN IWAKI 松本和利展 | A4判 巻き三つ折り (6ページ) |
| NEW ART SCENE IN IWAKI 西成田郁夫展 | A4判 観音開き四つ折り (8ページ) |

普及事業

実技講習室の公開

実技講座の参加者を対象に講座で学んだ技法をさらに深めるために場所と備品を開放。今年度は、銅版画の講座参加者が利用。

普及事業

図書室の公開

午前9時30分から午後5時まで（7、8月の金曜日は午後8時まで）、室内閲覧に限り図書室を公開している。貸出業務は行っていない。展覧会図録など図書室で公開していない資料類についても、利用者の申し出により閲覧できる。

また、常設展・企画展開催時には、鑑賞の一助になるよう関連図書を会場内の一箇所に配置している。

普及事業

実習生の受け入れ

■博物館実習

7月23日（木）から8月5日（水）にかけて、学芸員資格取得を目的とする博物館実習を行い、6名の実習生を受け入れた。

■インターンシップ（職場体験学習）

市内の中学校・高等学校の要請を受け入れ、生徒の勤労への理解・関心を深め職業観の形成や職業選択の一助となることを目的としたインターンシップ（職場体験）を行った。

9月10日（木）～ 9月11日（金） 磐崎中学校3学年 2名

9月15日（火）～ 9月16日（水） 好間中学校3学年 3名

10月6日（火）～ 10月8日（木） 好間高等学校1学年 3名

普及事業

共催事業

月 日	講 師 等	講 座 名	共 催 先	会 場
9月4日～ 9月5日		裸婦デッサン会	いわき美術協会、美術館友の会	企画展示室1、2
9月26日	中川李枝子	中川李枝子講演会	福島こどものとも社 (株式会社ハートランド)	芸術文化交流館 アリオス
9月29日	当館館長	美術館長講座「ヒトラーと退廃美術」	いわき日独協会	セミナー室
11月28日	当館学芸員	先生のための図画工作・美術の鑑賞指導 法講座「絵をみるということ」	福島県教育センター	セミナー室、 企画展示室
2月7日	市美展書の部招待作家	市美展書の部 席上揮毫	市美展書の部	1階ロビー
2月7日	市美展書の部審査員	市美展書の部 審査員による作品解説会	市美展書の部	企画展示室
2月20日	市美展絵画・彫塑の部 招待作家	市美展絵画・彫塑の部 招待作家による 入選作品批評会	市美展絵画・彫塑の部	企画展示室
3月5日	宗偏流福島南支部	市美展陶芸の部 呈茶会（市民がつくった 茶碗を使って…）	市美展陶芸の部	1階ロビー
3月6日	新谷辰夫、児玉良介、 平子貞男	市美展陶芸の部 タッチコーナー	市美展陶芸の部	企画展示室
3月6日	上遠野良夫、吉田精利	市美展写真の部 招待作家による（入賞） 作品説明会	市美展写真の部	企画展示室

所 蔵 資 料

- A. 美術品収蔵状況
- B. 美術品貸出状況
- C. 所蔵資料に関する状況

A. 美術品収蔵状況

年度	購 入		寄 贈		移管	計	寄 託	
	点数	備 考	点数	備 考	点数	点数	点数	備 考
昭55年	68	※	10			78	1	一色ちか子
56	115	※	337	宝船 312 点		452	1	大平華泉《白河城跡》(H.19 返却)
57	75		26	※		101		
58	357		67	資料 3 点含む	5	429		
59	54		27		4	85		
60	53		37			90		
61	23		105		7	135	1	下村観山
62	7		22			29		
63	21		8			29		
平成元	11		9		2	22		
2	17		28	資料 2 点含む		45	38	
3	10		5			15	1	舟越桂
4	9		9			18	4	田口安男
5	9	※	0			9		
6	5		4			9	8	田口安男
7	7		4			11		
8	7		2			9		
9	11		1			12		
10	28		6			34		
11	8	※	37			45	- 38	H.2年度分返却
12	11		23			34	5	松田松男作品
13	8		22			30		
14	8		1			9		
15	12		42			54	2	中村一美
16	33		13			46		
17	17		8			25		
18	3		1			4		
19	0		3			3	- 1	S.59年度分返却
20	0		30			30	14	イケムラレイコ13点、河口龍夫1点
21	0		1			1		
22	0		0			0		
23	0		40	資料 9 点含む		40	- 12	H.4およびH.6の田口安男受贈へ
24	0		116			116		
25	0		18			18		
26	0		22			22	- 1	H.15の中村一美返却
27	0		14			14		
計	987		1,098		18	2,103	23	

※：平成 21 年度に見直し。

B. 美術品貸出状況

作家名	作品名	貸し出し先	貸出期間	目的（展覧会名）
高松次郎	点（1961年）	国立国際美術館	2015年 3月19日～7月21日	高松次郎 制作の軌跡
高松次郎	点（1962年）			

作家名	作品名	貸し出し先	貸出期間	目的(展覧会名)
高松次郎	影A	福井市美術館 佐世保市博物館島瀬 美術センター	2015年 5月20日～9月6日	アメリカン・ポップ・ア ート展(巡回)
高松次郎	透視されたベンチ			
高松次郎	ネットの弛み			
ロイ・リキテンスタイン	二つの円のある近代絵画			
トム・ウェッセルマン	マティスのあるモニカのヌ ード			
アラン・ダーカンジェロ	プロポジション#5			
リチャード・ハミルト ン	インテリア			
ジャスパー・ジョーン ズ	色数字 0～9			
アレックス・カツ	ドンとサンドラ			
菊畑茂久馬	植物図鑑	愛知県美術館	2015年 7月29日～10月10日	芸術植物園
パブロ・ピカソ	闘牛士と女と馬	ふくやま美術館	2015年 9月8日～11月29日	ピカソ展 誰でもわかる 天才の名画
パブロ・ピカソ	闘牛			
パブロ・ピカソ	槍をついた後			
パブロ・ピカソ	槍			
松田松雄	風景(民-A)	岩手県立美術館	2015年 9月5日～12月3日	松田松雄展
松田松雄	風景(民-B)			
松田松雄	風景(民-C)			
松田松雄	風景デッサン			
松田松雄	風景デッサン5(寄託作品)			
松田松雄	風景デッサン19(寄託作品)			
松田松雄	風景デッサン82(寄託作品)			
増田聡子	KINA Siegen	日立市郷土博物館	2015年 10月7日～12月9日	増田聡子の絵画―色彩 と形象の交響詩
井上長三郎	葬送曲	板橋区立美術館	2015年11月12日～ 2016年1月8日	没後20年 井上長三郎・ 照子展
パブロ・ピカソ	ジャクリーン	松坂屋美術館	2016年1月7日～ 2016年2月27日	―愛と青春のアトリエ ―洗濯船と蜂の巣
パブロ・ピカソ	草上の昼食			
パブロ・ピカソ	飾り帽子の女の顔			
パブロ・ピカソ	母と踊り子と音楽家			
パブロ・ピカソ	葉の冠をつけたひげの男			
パブロ・ピカソ	三人の女			
パブロ・ピカソ	版画集「サーカス」38点セ ット			

C. 所蔵資料に関する状況

●図書資料

	購入			受 贈			計
	図 書	図録・目録	館報・紀要	図 書	図録・目録	館報・紀要	
平成22年度まで	4,885	145	6	2,384	17,429	4,543	29,392
平成23年度	140	3	0	16	301	118	578
平成24年度	70	15	0	85	259	179	608
平成25年度	16	8	0	82	460	214	780
平成26年度	47	4	0	84	374	222	731
平成27年度	9	3	0	73	468	210	763
計	5,167	178	6	2,724	19,291	5,486	32,852

●映像資料

	購入								受 贈								計	
	CD	DVD	ビデオ テープ	LD	フィルム	スライド	カセット テープ	その他	CD	DVD	ビデオ テープ	LD	フィルム	スライド	カセット テープ	電子 ブック		その他
平成22年度まで	16	68	245	51	11	16	0	0	63	45	59	0	0	0	1	1	1	577
平成23年度		3							2	2								7
平成24年度	6	3							7	7								23
平成25年度	1	1							4	8	1							15
平成26年度	1								6	10								17
平成27年度									10	15								25
計	24	75	245	51	11	16	0	0	92	87	60	0	0	0	1	1	1	664

D. 平成27年度新収蔵作品

凡 例

1. この目録には、平成27年度のいわき市立美術館新収蔵作品を収録した。
2. 作品の分類は、平面作品Ⅰ（直接技法に基づくもの）、平面作品Ⅱ（間接技法に基づくもの：版画等）、平面作品Ⅲ（ポスター、写真等）、立体作品、映像・その他。
3. 各作品のデータは以下の通り。
整理番号／作者名（生没年）
作品名
制作年
技法・材質
寸法
サインの位置及び年記
最初の発表展覧会及び受賞歴
収蔵の経緯
登録番号
4. 作家名は分類ごとに日本人作家と外国人作家に大別し、日本人作家は五十音順に、外国人作家は姓のアルファベット順に配列した。
5. 制作年は、作品に明記されているもの、及び制作事情の明確なものに限って記載した。
6. 寸法は、センチメートルを単位として、平面作品では画面の縦×横、立体作品では高さ×幅×奥行きとした。

【平成27年度 収蔵作品分類】

平面作品Ⅰ	14点
平面作品Ⅱ	0点
平面作品Ⅲ	0点
立体作品	0点
映像・その他	0点
資料	0点
計	14点

〈平面作品Ⅰ〉

1. 鈴木新夫（1915-1980）

午後
1939
油彩・カンヴァス
194.0×130.0
受贈 白石みどり、
鈴木まりこ
2015-3



2. 鈴木新夫（1915-1980）

橋のある風景
1966
油彩・カンヴァス
97.5×145.5
受贈 白石みどり、
鈴木まりこ
2015-4



3. 鈴木新夫（1915-1980）

橋のある風景（スケッチ）
1966
鉛筆、インク、パステル・紙
16.9×25.5
受贈 白石みどり、
鈴木まりこ
2015-5



4. 鈴木新夫（1915-1980）

古河好間炭鉱ズリ山
1956
パステル、鉛筆・紙
26.3×37.9
受贈 白石みどり、
鈴木まりこ
2015-6



5. 鈴木新夫 (1915-1980)

からすうり

不詳

鉛筆、パステル、水彩・紙

24.2×35.3

受贈 白石みどり、
鈴木まりこ

2015-7



7. 鈴木新夫 (1915-1980)

男とヤツデ

不詳

木炭、鉛筆・紙

25.2×36.0

受贈 白石みどり、
鈴木まりこ

2015-9



6. 鈴木新夫 (1915-1980)

労働者 (後ろ姿)

不詳

木炭、鉛筆・紙

35.7×25.6

受贈 白石みどり、
鈴木まりこ

2015-8



8. 鈴木新夫 (1915-1980)

1915-1980

選炭作業

1944

鉛筆、水彩、コンテ・紙

35.3×25.9

受贈 白石みどり、
鈴木まりこ

2015-10



9. 鈴木新夫 (1915-1980)

選炭作業

1944

鉛筆、コンテ・紙

36.3×25.5

受贈 白石みどり、
鈴木まりこ

2015-11



10. 鈴木新夫 (1915-1980)

炭鉱の坑内

1944

鉛筆、コンテ・紙

36.4×25.5

受贈 白石みどり、
鈴木まりこ

2015-12



11. 鈴木新夫 (1915-1980)

W氏像

1944頃

コンテ、鉛筆・紙

36.9×25.3

受贈 白石みどり、
鈴木まりこ

2015-13



12. 鈴木新夫 (1915-1980)

W氏像 (2)

1944頃

コンテ・紙

36.9×25.3

受贈 白石みどり、
鈴木まりこ

2015-14



13. 辰野登恵子 (1950-2014)

Work 85-P-4

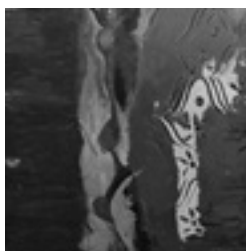
1985

アクリル・カンヴァス

194.0×194.0

受贈 辰野仁造

2015-1



14. 辰野登恵子 (1950-2014)

Untitled 95-8

1995

油彩・カンヴァス

218.0×291.0

受贈 辰野仁造

2015-2



いわき市立美術館条例

昭和58年12月27日いわき市条例第58号

(設置)

第1条 美術に関する市民の知識及び教養の向上を図り、市民文化の発展に寄与するため博物館法（昭和26年法律第285号。第10条において「法」という。）第18条の規定により、美術館を設置する。

(名称及び位置)

第2条 美術館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
いわき市立美術館	いわき市平字堂根町4番地の4

(事業)

第3条 いわき市立美術館（以下「美術館」という。）は、その目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 美術作品その他の美術に関する資料(以下「美術作品等」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 美術に関する調査及び研究を行うこと。
- (3) 美術に関する展覧会、講演会、講習会、映写会等を開催すること。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、美術館の設置の目的を達成するために必要な事業

(観覧料)

第4条 美術館の常設展（美術作品等の常設展示をいう。以下同じ。）を観覧しようとする者は、別表第1に定める観覧料を納付しなければならない。ただし、美術館の特別展（常設展以外の展示をいう。以下同じ。）と併せて観覧する場合又は国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第2条に規定する国民の祝日において観覧する場合は、この限りでない。

- 2 特別展を観覧しようとする者は、別表第2に定める額の範囲内において、市長が定める観覧料を納付しなければならない。

(撮影等の許可及び料金)

第5条 学術研究等のため、美術館に展示され、又は保管されている美術作品等の写真撮影、模写又は模造等しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

- 2 前項の許可を受けた者は、別表第3に定める撮影等料金を納付しなければならない。

(観覧料等の免除)

第6条 市長は、次の各号の一に該当すると認めるときは、観覧料（常設展に係るものに限る。）又は撮影等料金を免除することができる。

- (1) 外国人留学生が、福島県の実施する外国人留学生文化施設等無料観覧制度に基づき観覧するとき。
- (2) 国又は地方公共団体が行う教育、学術又は文化に係る事業の用に供するため撮影等をするとき。

(観覧料等の不返還)

第7条 既納の観覧料又は撮影等料金は、返還しない。ただし、市長は、災害その他不可抗力により、観覧又は撮影等をするのができなくなったときは、既納の観覧料又は撮影等料金を返還することができる。

(入館の制限)

第8条 教育委員会は、美術館に入館しようとする者又は入館している者が次の各号の一に該当すると認めるときは、入館を制限し、又は館外へ退館させることができる。

- (1) 他人に危害を加え、又は迷惑を及ぼすおそれがあるとき。
- (2) 施設、設備又は美術作品等を損傷するおそれがあるとき。

(3) 前2号に掲げるもののほか、美術館の管理に支障があると認めるとき。

(賠償責任)

第9条 入館者は、施設、設備又は美術作品等を損傷し、又は滅失したときは、教育委員会の指示するところに従い、その損害を賠償し、又はこれを原状に回復しなければならない。ただし、市長は、相当の理由があると認める場合は、その全部又は一部を免除することができる。

(美術館協議会)

第10条 法第20条第1項の規定に基づき、いわき市立美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が委嘱する。

3 協議会は、委員15人以内で組織する。

4 協議会の委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(委任)

第11条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この条例は、昭和59年4月28日から施行する。ただし、第1条から第3条まで、第10条及び第11条の規定は、昭和59年4月1日から施行する。

(略)

附 則（平成25年12月26日いわき市条例第67号）

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

別表第1（第4条関係）

区 分	観 覧 料	
	個 人	団 体
一 般	210円	170円
高 校 生、高 等 専 門 学 校 生、大 学 生	150円	110円
小 学 生、中 学 生	70円	50円

備考 団体とは、20人以上をいう。

別表第2（第4条関係）

区 分	観 覧 料	
	個 人	団 体
一 般	1,500円	1,200円
高 校 生、高 等 専 門 学 校 生、大 学 生	740円	590円
小 学 生、中 学 生	440円	350円

備考 団体とは、20人以上をいう。

別表第3（第5条関係）

区 分		料 金	
写 真 撮 影	モ ノ ク ロ ーム	1点1回につき	1,620円
	カ ラ ー	1点1回につき	3,240円
模 写、模 造		1点1日につき	2,160円
熟 覧、拓 本		1点1回につき	210円

備考 1 ^{びょう}屏風は、1双を1点とする。

2 1そろいの卷子（巻物をいう。）は、1巻を1点とする。

3 対幅は、1幅を1点とする。

4 撮影は、同一作品について原板3枚以内を1回とする。

いわき市立美術館管理規則

昭和59年3月31日いわき市教育委員会規則第6号

(趣旨)

第1条 この規則は、いわき市立美術館条例（昭和58年いわき市条例第58号。以下「条例」という。）の規定に基づき必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 いわき市立美術館（以下「美術館」という。）に、次の課及び係を置く。

庶務課 庶務係

学芸課 学芸係、普及係

(事務分掌)

第3条 課の事務分掌は、次のとおりとする。

庶務課

- (1) 公印の保管に関すること。
- (2) 予算の経理に関すること。
- (3) 美術館の維持管理に関すること。
- (4) 観覧料及び撮影等料金の徴収に関すること。
- (5) 統計に関すること。
- (6) 美術館協議会に関すること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、学芸課の所掌に属しない事務に関すること。

学芸課

- (1) 美術作品等の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 美術に関する専門的な調査研究に関すること。
- (3) 展覧会、研究会、講演会、映写会等の開催に関すること。
- (4) 美術に関する案内書、解説書、目録等の刊行に関すること。
- (5) 美術作品等の利用に関する助言及び指導に関すること。
- (6) 美術作品等の寄贈及び寄託に関すること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、学芸事務に関すること。

(職及び職務)

第4条 美術館に館長、副館長、課に課長、係に係長を置き、必要に応じ、参事、主幹、主任主査、専門学芸員、主査、主任学芸員、事務主任、主事、学芸員、主任運転手及び運転手を置く。

- 2 館長は、上司の命を受け、館務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- 3 参事は、上司の命を受け、美術館の事務に関する企画及び調整に参画する。
- 4 副館長は、館長の職務遂行を補佐し、館長に事故があるときは、その職務を代理する。
- 5 主幹は、上司の命を受け、館長が定める特定の事務を掌理する。
- 6 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理する。
- 7 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。
- 8 主任主査は、上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理する。
- 9 専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の専門的な事務を処理する。
- 10 主査は、上司の命を受け、美術館の事務の一部を分担処理する。
- 11 主任学芸員は、上司の命を受け、係の事務のうち特定の事務を処理する。
- 12 事務主任は、上司の命を受け、係の事務の一部を分担処理する。

- 13 主事は、上司の命を受け、事務をつかさどる。
- 14 学芸員は、上司の命を受け、専門的な事務を処理する。
- 15 主任運転手は、上司の命を受け、担任の自動車運転の業務を処理する。
- 16 運転手は、上司の命を受け、自動車運転の業務に従事する

(休館日)

第5条 美術館の休館日は、次の各号に掲げる日とする。ただし、教育委員会は、必要があると認めるときは、これを変更し、又は臨時に休館することができる。

- (1) 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、その日後のその日に最も近い休日でない日）
- (2) 1月1日から同月4日まで及び12月28日から同月31日まで

(開館時間)

第6条 美術館の開館時間は、午前9時30分から午後5時（入館は、午後4時30分）までとする。ただし、毎年7月及び8月の金曜日については、午前9時30分から午後8時（入館は、午後7時30分）までとする。

(観覧券の交付)

2 教育委員会は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

第7条 条例第4条の規定により、観覧料を納付した者に対して観覧券（第1号様式）を交付しなければならない。

(撮影等の許可及び料金)

第8条 条例第5条第1項に規定する撮影、模写又は模造等（以下「撮影等」という。）をしようとする者は撮影等許可申請書（第2号様式）を教育委員会に提出しなければならない。

2 教育委員会は、撮影等を許可したときは、撮影等許可書（第3号様式）を交付する。

(観覧料等の減免)

第9条 条例第6条第2号又はいわき市障害者、高齢者及び児童生徒等の利用に係る公の施設の使用料の減免に関する条例（平成13年いわき市条例第56号）第5条第1項の規定により観覧料又は撮影等料金の減免を受けようとするときは、観覧料・撮影等料金減免申請書（第4号様式）を教育委員会に提出しなければならない。

2 教育委員会は、前項の規定による申請があった場合において、観覧料又は撮影等料金の減免を決定したときは、観覧料・撮影等料金減免通知書（第5号様式）を交付する。

(観覧料等の返還)

第10条 条例第7条の規定により観覧料又は撮影等料金の返還を受けようとする者は、その理由を記載した観覧料・撮影等料金返還申請書（第6号様式）を教育委員会に提出しなければならない。

(美術館協議会の会長及び副会長)

第11条 条例第10条に規定するいわき市立美術館協議会（以下「協議会」という。）に会長及び副会長各1人を置き、それぞれ委員の互選により定める。

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第12条 協議会の会議は、会長が招集し、会長が会議の議長となる。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(事務処理及び服務)

第13条 美術館における事務処理及び服務については、いわき市教育委員会事務局処務規程（昭和47年い

わき市教育委員会訓令第2号)に基づく事務処理及びサービスの例による。

(委任)

第14条 この規則に定めるもののほか、この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この規則は、昭和59年4月1日から施行する。ただし、第5条から第10条までの規定は、昭和59年4月28日から施行する。

(略)

附 則 (平成22年3月31日いわき市教委規則第5号)

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

第1号様式 (第7条関係)

その1

常 設 展 観 覧 券	(切)	常 設 展 観 覧 券
金 額 取		金 額 取
いわき市立美術館	この券をもって領収に代えます。	いわき市立美術館

その2

特 別 展 観 覧 券	(切)	特 別 展 観 覧 券	(切)	常 設 展 観 覧 券
金 額 取		金 額 取		金 額 取
いわき市立美術館	この券をもって領収に代えます。	いわき市立美術館		いわき市立美術館

- 備考 1 寸法、デザイン等については、その都度定める。
2 観覧券の区分は、一般、高校生・高等専門学校生・大学生及び小学生・中学生とする。

第2号様式 (第8条関係)

第2号様式 (第8条関係)									
撮 影 等 許 可 申 請 書									
いわき市教育委員会殿									
年 月 日									
住所又は所在地									
氏名又は名称及び代表者									
電話 -									
注 太枠線のみ記入してください。									
第 号 年 月 日 許可									
美術作品の名称									
作者名									
点数									
日時 年 月 日 時 分から 時 分まで									
目的									
方法									
撮影 模写 模造 熟覧 拓本									
料 撮 影 モノクローム 点 円 計									
カ ラ ー 点 円									
模 写 ・ 模 造 点 円									
熟 覧 ・ 拓 本 点 円									
円									
館長 副館長 課長 係長 係									

第3号様式 (第8条関係)

第3号様式 (第8条関係)									
撮 影 等 許 可 書									
殿									
いわき市教育委員会 宛									
下記のとおり撮影等を許可します。									
第 号 年 月 日 許可									
美術作品の名称									
作者名									
点数									
日時 年 月 日 時 分から 時 分まで									
目的									
方法									
撮影 模写 模造 熟覧 拓本									
料 撮 影 モノクローム 点 円 計									
カ ラ ー 点 円									
模 写 ・ 模 造 点 円									
熟 覧 ・ 拓 本 点 円									
円									
指示事項									

第4号様式（第9条関係）

第4号様式（第9条関係）

観覧料
撮影等料金
減免申請書

いわき市教育委員会

年 月 日

住所（所在地）
申請者 氏名（名称及び代表者氏名）
電話番号
担当者氏名

注意 太枠の中だけ記入してください。

観覧日時 年 月 日 時 分から 時 分まで	撮影等日時 年 月 日 時 分から 時 分まで			撮 影 等	
区 分	常設展	特別展			
一 般	人	人	写真撮影	モノクローム	点
高 校 生 高等専門学校生 大 学 生	人	人	カ ラ ー		点
小 学 生 中 学 生	人	人	模 写 ・ 模 造		点
			熟 覧 ・ 拓 本		点
計	人	人	計		点

減免申請の理由

☐減免する。
☐減免しない。

減免しない理由

前付すべき観覧料等 円
減免率
減免後の観覧料等 円
起 業 年 月 日
決 裁 年 月 日
施 行 年 月 日
許可番号 第 号

館長 副館長 課長 係長 係員

第5号様式（第9条関係）

第5号様式（第9条関係）

観覧料
撮影等料金
減免通知書

様

年 月 日

いわき市教育委員会 図

申請年月日 年 月 日	許可番号 第 号				
観覧日時 年 月 日 時 分から 時 分まで	撮影等日時 年 月 日 時 分から 時 分まで				
区 分	常設展	特別展	撮 影 等		
一 般	人	人	写真撮影	モノクローム	点
高 校 生 高等専門学校生 大 学 生	人	人	カ ラ ー		点
小 学 生 中 学 生	人	人	模 写 ・ 模 造		点
			熟 覧 ・ 拓 本		点
計	人	人	計		点

減免率

減免率

減免後の観覧料

減免後の撮影等料金

第6号様式（第10条関係）

第6号様式（第10条関係）

観覧料
撮影等料金
返還申請書

いわき市教育委員会殿

下記のとおり 観覧料
撮影等料金 の返還を受けたいので申請します。

年 月 日

注 太枠線のみ記入してください。

申請者

住所又は所在地

氏名又は名称及び代表者

電話 -

第 号 年 月 日許可

申請理由

既納観覧料等
観覧料 枚 円
撮影料等 枚 円

返還申請金額 円

館長 副館長 課長 係長 係員

事業経過報告

平成 28 年 3 月 31 日現在

事 業 名			開催期間 (日数)	料 金						入場者数								27 年 度 計
				一般			団体			一般			団体			招待	無料	
				一般	高大	小中	一般	高大	小中	一般	高大	小中	一般	高大	小中			
常 設 展	美術館へようこそ モノクローム∞フルカラー	4/1～9/27 157日間	210	150	70	170	110	50	279	18	24	19	0	0	754	9,904	10,998	
	ひとのかたちを求めて	9/29～3/31 153日間	210	150	70	170	110	50	448	41	8	94	1	0	281	6,638	7,511	
小 計 A									727	59	32	113	1	0	1,035	16,542	18,509	
展 覧 企 画 展	肉筆浮世絵の華と艶	4/18～5/24 33日間	1,000	500	300	800	400	240	2,084	52	27	99	2	0	161	3,626	6,051	
	美術館へようこそ	5/30～7/5 32日間	500	300	100	400	240	80	454	17	2	46	0	0	84	669	1,272	
	アンコール・ワットへのみち	7/18～8/30 39日間	1,000	500	300	800	400	240	3,516	114	97	108	0	0	336	4,748	8,919	
	NEW ART SCENE IN IWAKI 松本和利展	7/18～8/30 39日間	無 料												6,861	6,861		
	ぐりとぐら展	9/12～10/25 38日間	800	400	200	640	320	160	10,522	481	1,085	338	11	74	934	9,152	22,597	
	NEW ART SCENE IN IWAKI 西成田育男 更地	9/12～10/25 38日間	無 料												18,265	18,265		
	山口啓介 原-ききとり	11/7～12/13 32日間	800	400	200	640	320	160	219	6	8	82	314	0	227	656	1,512	
	いわき市小・中学生版画展	1/5～1/24 18日間	無 料												4,838	4,838		
	第45回市美展 (書の部)	2/5～2/14 9日間	無 料												1,105	1,105		
	第45回市美展 (絵画・彫塑の部)	2/20～2/28 8日間	無 料												2,098	2,098		
	第45回市美展 (陶芸の部・写真の部)	3/4～3/13 9日間	無 料												2,099	2,099		
	小 計 B									16,795	670	1,219	673	327	74	1,742	54,117	75,617
展 覧 会 事 業 計 C (A+B)									17,522	729	1,251	786	328	74	2,777	70,659	94,126	
普 及 事 業	移動美術館		無 料															
	講演会		無 料															
	美術講座		無 料															
	ギャラリー・トーク／団体等解説		無 料															
	ワークショップ		無 料															
	実技講座		無 料															
	公開制作		無 料															
	コンサート&パフォーマンス		無 料															
	映像鑑賞会		無 料															
	実技講習会の公開		無 料															
	共済事業		無 料															
	普 及 事 業 小 計 D															4,955	4,955	
合 計 E (C+D)									17,522	729	1,251	786	328	74	2,777	75,614	99,081	

普及事業報告

平成 28 年 2 月 23 日現在

事業名	内 容 等	講 師 等	月 日	人数
講 演 会	氏家浮世絵コレクションにみる江戸絵画の魅力	河野元昭（氏家浮世絵コレクション財団理事、東京大学名誉教授）	5月9日	43
	アーティスト・トーク1「私とコレクション」	吉田重信（作家）	6月14日	28
	アーティスト・トーク2「私とコレクション」	山本伸樹（作家）	7月5日	35
	クメール彫刻の時代と形の変遷	島津法樹（東南アジア美術研究家）	7月18日	16
	アンコール遺跡の謎を解くー岩石学からのアプローチ	内田悦生（早稲田大学教授）	7月26日	40
	アーティスト・トーク「石彫作家とクメールの彫刻を見る」	鈴木貴雄（彫刻家）	8月22日	30
	西成田育男展 アーティスト・トーク	西成田育男（作家）	9月19日	40
	アーティスト・トーク「原-ききとり 歩く方舟、海を渡る星図、震災後ノート」	山口啓介（美術家）	11月7日	21
	対談「科学と芸術の汀 “自然”と“人間”」	中村桂子（JT 生命誌研究館館長）、山口啓介（美術家）	12月6日	40
	小 計			293
美 術 講 座	コレクションを語る	当館館長	5月31日	12
	美術館長講座「ヴィーナスの誕生」	当館館長	12月12日	2
	美術館長講座「ラピスラズリの美術史」	当館館長	2月20日	9
小 計				293
ギャラリー・トーク等	常設展	当館学芸員	毎週土曜日（45回開催）	44
	美術館へようこそ展名作、大作目白押しコレクション大公開	当館学芸員	6月6、20日、7月4日（3回）	15
	神々の彫刻 アンコール・ワットへのみち展	当館学芸員	7月25日	20
	山口啓介 原-ききとり 歩く方舟、海を渡る星図、震災後ノート ギャラリー・オリエンテーリング	当館学芸員	11月15日、12月12日	18
	団体解説等	当館学芸員	通年、随時	863
小 計				293
実 技 講 座	肉筆浮世絵に触れる～日本画入門～	久保本桂子（日本画家）	5月2、3日（2日間）	15
	石彫～レリーフの美～	鈴木貴雄（彫刻家）	8月8、9日（2日間）	2
	作家とコラボ⇄銅版画を楽しもう	山口啓介（美術家）	11月28、29日（2日間）	9
	作家とコラボ⇄銅版画を楽しもう	山口啓介（美術家）	12月5日	9
	ペットボトルがアートへ!! 千支シリーズ「辰（ドラゴン）」	本間すみみ（ペットボトルアーティスト）	3月19、20日（3回）	23
小 計				293
公 開 制 作	公開制作・体験講座「技筆づくり」	阿部悠季（画筆清辰堂筆職人）	4月25日	15
	ペットボトルがアートへ!! 千支シリーズ「辰（ドラゴン）」	本間すみみ（ペットボトルアーティスト）	3月19、20日	23
小 計				293
ワークショップ	山口啓介 原-ききとり カセットプラント・サテライトワークショップ on 四倉高校2年3組	土屋裕子（四倉高校教諭） 当館学芸員	7月13日	15
	カセットプラント・ファクトリーいわき（ボランティア）	当館学芸員	7月～11月（23回開催）	76
	2015・夏 ‘美術館的’自由研究のすすめ	当館学芸員	7月24、25、26日	5
	山口啓介 原-ききとり カセットプラント・サテライトワークショップ on いわき総合高校美術部	羽根真実子（いわき総合高校教諭） 当館学芸員	8月4日	11
	山口啓介 原-ききとり カセットプラント・サテライトワークショップ on いわき芸術文化交流館アリオス	山口啓介（美術家） 山口作子（カセットプラント・ファクトリー代表）	10月3日	12
	山口啓介 カセットプラントワークショップ いわきの高校生とともに	山口啓介（美術家） 山口作子（カセットプラント・ファクトリー代表）	10月4日	62
	山口啓介 原-ききとり オープニング・ワークショップ「山口啓介 / カセット・プラント」	山口啓介（美術家）	11月7日	8
	カセットプラント・オープンワークショップ	当館スタッフ	11月7日～12月13日	111
	わくわくアートスクール「小さな夢の本」	田中淑恵（製本作家）	1月24日（2回）	21
	プリントコーナー	当館スタッフ	1月5日～1月24日	822
	収蔵作家ワークショップ 百瀬寿の「ももいろグラデーション」（県立ろう学校平分校）	百瀬寿（収蔵作家）	3月11日	28
	収蔵作家ワークショップ 百瀬寿の「ももいろグラデーション」	百瀬寿（収蔵作家）	3月12、13日	15
	小 計			293
コ ン サ ー ト & パ フ ォ ー マ ン ス	日本の芸「江戸糸あやつり人形」	上条 充（人形遣い）、福田久美子（人形遣い）	5月24日	300
	絵本読み聞かせ	JPIC 読書アドバイザークラブ福島支部	9月20日、10月18日	418
	ウォン・ウインツァン ピアノソロ・コンサート「瞑想のピアニスト『奇跡のピアノ』を弾く」	ウォン・ウインツァン（ピアニスト）	11月7日	140
	春を祝うコンサート・パフォーマンス「目で観る打楽器の音楽」	小野周二（打楽器）、小菅しほり（打楽器） 向田早希（打楽器）	1月11日	100
小 計				293
映 像 鑑 賞 会				
小 計				293
移 動 美 術 館	アート・キャラバン2015 ※プログラム 「お茶のおいしさ、お茶の楽しみ」、「世界にひとつだけのグラスアート」、「帯からくり」、「切り絵・切り紙の楽しい世界」、「岩絵具で遊んじゃおう」、「織って、編んで、楽しいオブジェ作り」、「コロコロオブジェに夢中」、「セミナー 色・再発見」	梶塚宏之（日本茶インストラクター） 高原あかね（日本茶アドバイザー） 織田千代（造形作家） 当館学芸員	通年、39回	913
	小 計			293
実技講習室開放	実技講座修了者による自己研鑽補助、実技相談等		1月～	9
小 計				293
共 催 事 業	裸婦デッサン会	いわき美術協会、美術館友の会	9月4、5日	46
	中川李枝子講演会	中川李枝子／福島こどものとも社（株式会社ハートランド）	9月26日	170
	美術館長講座「ヒトラーと退廃美術」	いわき日独協会／当館館長	9月29日	12
	先生のための図画工作・美術の鑑賞指導法講座「絵をみるということ」	福島県教育センター／当館学芸員	11月28日	11
	市美展書の部 席上揮毫	市美展書の部／市美展書の部招待作家	2月7日	50
	市美展書の部 審査員による作品解説会	市美展書の部／市美展書の部審査員	2月7日	30
	市美展絵画・彫塑の部 招待作家による入選作品批評会	市美展絵画・彫塑の部／市美展絵画・彫塑の部招待作家	2月20日	32
	市美展陶芸の部 呈茶会（市民がつくった茶碗を使って…）	市美展陶芸の部／宗偏流福島南支部	3月5日	66
	市美展陶芸の部 タッチコーナー	市美展陶芸の部／新谷辰夫、児玉良介、平子貞男	3月6日	60
	市美展写真の部 招待作家による（入賞）作品説明会	市美展写真の部／上遠野良夫、吉田精利	3月6日	40
	小 計			517
合 計				4,955

当初予算

単位：千円

項 目	金 額	備 考
人 件 費	83,250	
管 理 費	86,725	各種委員報酬、各種委員謝金、調査研修費、基金積立金、施設運営
施設管理費	80,554	
作品購入費	0	
施設整備費	6,171	
事 業 費	65,234	
企画展事業費	61,200	
常設展事業費	848	
教育普及事業費	2,818	
調査研究費	368	
計	235,209	

管 理 ・ 運 営
名 簿

- A. 美術館協議会委員
B. 美術品選定評価委員会
C. 美術館職員名簿

A. 美術館協議会委員名簿

任期：平成26年4月1日～平成28年3月31日

役職	氏 名	職 業（役職名）
会 長	齋藤 一彦	一般社団法人いわき観光まちづくりビューロー会長
副会長	峰 丘	いわき市立美術館友の会会長
委 員	猪狩 ひろ子	いわき女性の会
委 員	坂本 美知子	株式会社いわき市民コミュニティ放送
委 員	蛭田 誠	いわき美術協会
委 員	戸部 健一	いわき地域学会幹事
委 員	蛭田 光一	いわき青年会議所
委 員	相沢 とし子	国際ソロプチミストいわき 会長
委 員	織田 千代	美術家
委 員	草野 怜子	美術家
委 員	鈴木 充子	いわき市立平第六小学校校長 いわき市小学校教育研究会図画工作部会前部長
委 員	石井 秀吾	いわき市立平第一中学校教諭 いわき市中学校教育研究会美術専門部会副部長
委 員	土屋 裕子	福島県高等学校教育研究会美術工芸専門部会いわき支部長
委 員	鎌田 真理子	いわき明星大学教授
委 員	松田 文子	いわき市子ども会育成会連絡協議会事務局長

【博物館法】

第21条 博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行うもの並びに学識経験を有する者の中から当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

B. 美術品選定評価委員会委員名簿

任期：平成26年4月1日～平成28年3月31日

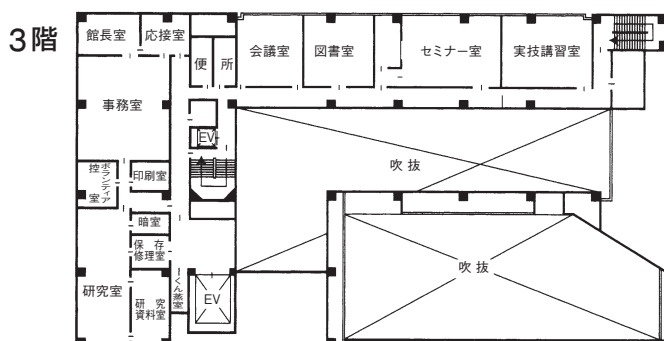
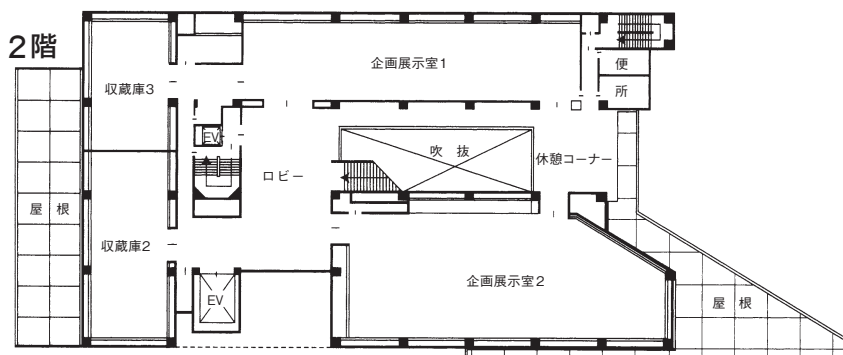
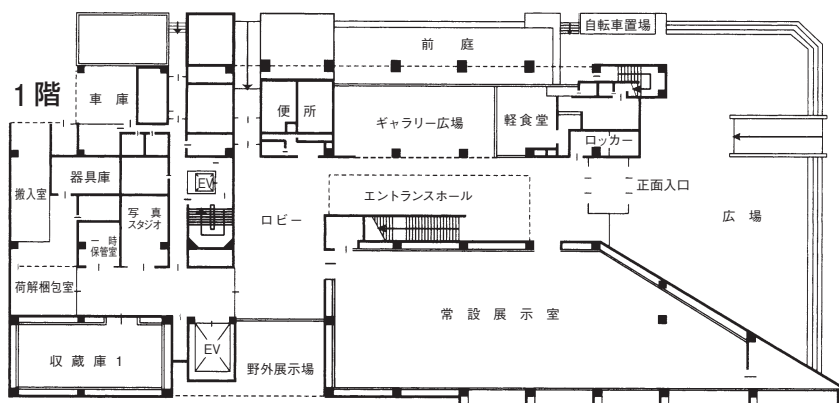
役職	氏 名	職 業（役職名）
	谷 新	美術評論家 宇都宮美術館長
	北郷 悟	彫刻家 東京藝術大学理事・教授
委員長	市川 政憲	美術評論家 前茨城県近代美術館長
副委員長	清水 真砂	世田谷美術館教育普及課課長
	小勝 禮子	栃木県立美術館技幹兼学芸課長
	荒木 康子	福島県立美術館専門学芸員

C. 美術館職員名簿

平成27年4月1日現在

	職 名	氏 名
	館 長㊟	佐々木 吉 晴
	参 事(兼)副 館 長㊟	平 野 明 彦
《庶務課》	主 幹(兼)課 長㊟	吉 田 謠 生
○庶務係	係 長(兼)	吉 田 謠 生
	主 査	赤 津 み の り
	事 務 主 任	鈴 木 浩 美
《学芸課》	主 幹(兼)課 長㊟	杉 浦 友 治
○学芸係	係 長(兼)	杉 浦 友 治
	主 任 学 芸 員	秋 葉 啓 子
○普及係	主任主査(兼)係長	石 川 百合子
	主 任 学 芸 員	植 田 玲 子
	学 芸 員	江 尻 英 貴
	学芸員（再任用・単）	堀 越 達 雄

平 面 図



管 理 ・ 運 営
利 用 案 内

●開館時間

午前9時30分～午後5時（展示室への入場は午後4時30分まで）

7、8月の毎週金曜日は、夜8時まで開館。（展示室への入場は午後7時30分まで）

●休館日

毎週月曜日（ただし月曜日が祝日等の場合は開館し、翌日休館）

年末年始（12月28日～1月4日）

●観覧料

	常 設 展	企 画 展（その都度定める）
一 般	210円（170円）	1,500円（1,200円）以内
高・高専・大学生	150円（110円）	740円（590円）以内
小・中学生	70円（50円）	440円（350円）以内

※（ ）内は、20名以上の団体割引料金。

※企画展チケットで常設展もご覧になれます。

●企画展・常設展が無料になる場合

- ・市内在住の65歳以上の方は、企画展・常設展無料
- ・身体障がい者手帳、精神障がい者保健福祉手帳のいずれかをお持ちの方は、企画展・常設展無料
- ・土曜日、日曜日に限り、市内の小学校、中学校、高等学校、専修学校、高等専門学校に在学の方は、企画展・常設展無料（土曜日、日曜日に限る）
- ・祝日は、常設展無料

●図書室の利用時間

午前9時30分～午後5時

7月、8月の毎週金曜日は午後8時まで

●実技講習室の利用時間

午前9時30分～午後4時45分

7月、8月の毎週金曜日は夜7時45分まで

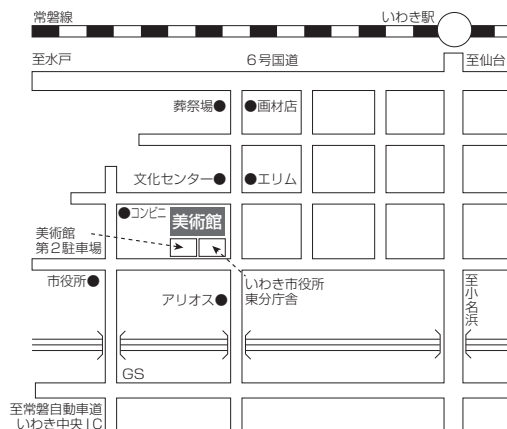
●交 通

J R常磐線、磐越東線いわき駅より徒歩12分

常磐自動車道、磐越自動車道いわき中央ICより10分

駐車場：美術館駐車場、他 いわき市公共駐車場

●地 図



平成27年度
いわき市立美術館年報

編集・発行
いわき市立美術館
〒970-8026 いわき市平字堂根町4-4